

畧譜

文

竹尾 朱子
竹村 朱子
竹本 朱子
竹尾 朱子



内閣文庫
和
三六八
二二
號

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211(73)
函號 156 17

畧譜

友

竹尾 竹本 竹村 竹海

味守 味門 味井 味垣

味尾 味田

二百五十八

内閣文庫

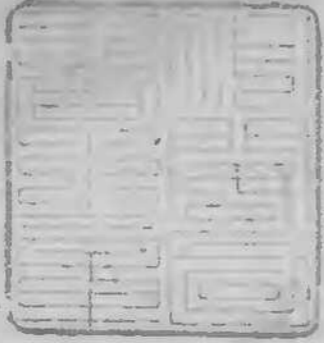
番號	和	36880
冊數	211(73)	
函號	156	17

五	三六八	和
二	二八	書
架	冊	類

174
593

東照宮御代

竹月



記録御用所

馬百早儀

家紋

梅所
九月二日

菅原長成三男竹月長成郎

成之 菅原長成三男竹月長成郎

給像入竹筒有依竹月天神

号依竹月長成光古代竹月長成郎
正二男



忠正

德齊

市十郎

元和二年壬午公之九弟側坊之庵兼辛
儀之御小千後
右德院殿附○二乃坊之氏加秩之
辛儀之○四年九坊之組及○寛文五年
被任○同年十月六日死○年九兼下谷
西運奇奏

正利

三碩

半郎

大德院殿沖代見方○兼德元年此
少納戸坊之○寛文五年被任○天和二
年二月之死○年九兼同子

正長

道順

志郎

尚尉表坊之竹月友而壽有祖

孫玄孫 市十郎

正題

天和二年五月家傳○貞享三年出納
坊之世系○家持傳之竹月天祿傳傳
東照天皇より出代之沖拜之終より貞享
五年二月廿六日出拜之長持名は作出所成
持泰沖之同出納之掛出拜相殿同日
右多見着被之と云家之系系同為之也

此の世系不詳なるを納戸近之と稱す
別名として其弟沖之難之故上之系
令二年あり物入○元禄七年四月甲子未發
命せし是加杖口平儀合百儀之入持持
より出行水方○日十年十月三日相之間
清為加杖口平儀約より月傳海云○同
十四年二月廿六日出代也○宝曆六年
一統小當傳○享保十八年五月廿四日任
○元文三年二月二十七日七系同也

正武

新助

元禄九年出役 出役 入日 三年 正月廿二
死

正時

傳八郎

元禄十三年正月廿八日 出役 出役 入日 何
小傳次 竹月 貞年 貞祖

之方

小傳次

享保十八年正月廿二日 家傳 〇元文三年
八月廿二日 表 出役 〇寛延二年二月
廿日 死 年 貞同 守

正親

小傳次 孫 貞 慶 貞 市十郎

右藏少辨神

実 彌木 交廣 男

寛文二年六月二十三日
年同九月二十日組
病乞

松田清殿

竹内

栲姓

高百平儀

家紋

九十五枚巻
丸

先祖 石伴

守次

六右衛門

寛文五年十月十三日
文永侍下
享二年十二月廿五日

永元年十一月五日病歿、由依由推打あり
○同元年十月病歿○享保三年四月病歿
死四苦母の奇疾

系次

吉左衛門

元禄七年十月廿五日播田法敷由依長
作月原米半儀あり○宝永元年十二
月又日病歿、由依由推打あり○同元年

四月又日法心院敷由依○同七年五月廿
六日杖打下○享保二年十二月廿二日御用
連加秋七千儀あり○百又千儀あり
月傳あり○享保三年三月十八日病歿
少寄儀○父病歿、由依由推打あり
○同元年五月十七日病歿

彰次

吉左衛門

享保六年十二月廿八日家譜○元文二年
九月廿三日死同寺

元次

古十郎

元文二年閏二月二日家譜○同三年二月
六日右衛門少輔附小十人○同八年八月
十三日病死○天保元年六月十五日死同寺

光次

古左衛門

天明元年九月七日家譜○寛政四年
四月廿八日死二年九月某日同寺

成明

平三郎

享保六年正月廿五日家譜○原福四男

寛政四年七月二日養子家智〇月八年
七月廿八日初見〇日五年七月廿八日初見
出紋

東照宮御代



竹内

高二百俵

源姓

家紋

九月十日
九月三日

後宇多院上北西角へ正四位下右系左
仲治六代元吉の孫治三男源井將監座
信重嫡男

信次

又左馬

東照宮御代内中村上左衛門左衛門天保

少陣信房、長之本、少全、我、少、信、房、少、唐、
院、有、少、甲、首、付、捕、於、我、湯、乃、在、唐、其、
甲、少、物、入、少、國、少、原、少、陣、信、房、少、
景、深、院、教、沖、廣、美、少、為、少、死、少、年、累

信右

共十郎 二郎在馬

大藏院教沖、長、院、為、少、常、信、少、石、洞、法、
院、少、唐、美、少、收、云

信正

平右馬

大藏院教沖、代、少、人、組、唐、美、百、信、十、人、
杖、杯、少、院、永、七、年、七、月、中、人、組、及、少、同、年、
十月、加、杖、二、百、信、約、少、人、杖、杯、收、云、合、三、百、
信、言、少、寬、永、七、年、病、死、少、正、保、三、年、六、
月、廿、日、死、早、七、年、牛、也、保、言、年、安

信託

三郎玄清

年三十一

正保元年土月十日初見。○家傳。○兼應二
 年七月之由。○寛文四年四月二十日
 由俄國。○天守雷火燒失。○三郎玄清。○柳原
 源三郎。○由人。○為。○由。○道。○進。○在。○下。
 卷有院。○院。○上。○所。○目。○見。○於。○清。○亦。○雷。○火。○燒。○失。
 言。○之。○因。○六。○年。○四。○月。○七。○日。○豊。○後。○國。○日。○田。○郡。
 清。○源。○三。○郎。○由。○人。○為。○由。○道。○進。○在。○下。

付清代官。○不。○知。○作。○付。○可。○信。○之。○由。○如。○增。
 以。○米。○之。○不。○知。○由。○重。○為。○由。○道。○進。○在。○下。○人。○校。
 村。○兵。○不。○重。○之。○因。○九。○年。○二。○月。○病。○死。○之。○由。○重。○為。○由。○道。○進。○在。○下。
 ○貞享元年二月廿三日。○海定國。○由。○道。○進。○在。○下。○
 同三年上。○總。○山。○部。○社。○堂。○中。○村。○由。○田。○村。○倫。○不。
 見。○分。○不。○知。○味。○之。○由。○重。○為。○由。○道。○進。○在。○下。○
 六。○脚。○伴。○有。○多。○之。○由。○重。○為。○由。○道。○進。○在。○下。○
 元。○祿。○五。○年。○五。○月。○八。○日。
 由。○法。○事。○三。○月。○由。○法。○事。○之。○日。○七。○年。○五。○月。○十日。
 石。○峯。○九。○庫。○米。○二。○百。○俵。○物。○八。○小。○重。○信。○日。○寺。

信託

三郎云信

年三平

正保元年五月十日初見。○家譜。○兼應二
年七月之由事。○寛文四年正月之由事
○俄内侍天守雷火燒失。○三郎云信柳原
源之傳由人。○為由源進。○云々

卷有院敷。○上河目見。○於河原雷火。○被
言。○同六年四月七日豊後國日田郡
河原。○當分。○由事。○多程。○官在。○紙。○信。○並。○下

付河代官。○云々。○不。○其。○作。○付。○云々。○信。○云々。○加。○増
以。○米。○云々。○不。○其。○事。○並。○為。○所。○以。○料。○子。○債。○年。○人。○被
抄。○不。○並。○同。○九年。○二月。○病。○死。○大。○由。○事。○由。○事
○貞享元年二月廿三日。○信。○是。○國。○代。○友。○
同三年上。○總。○山。○部。○社。○堂。○中。○村。○村。○因。○村。○倫。○不
見。○分。○不。○吟。○味。○成。○力。○同。○九年。○七月。○六。○日
六。○脚。○伴。○有。○事。○河。○原。○元。○禄。○五年。○五月。○八。○日
由。○事。○并。○由。○事。○河。○原。○元。○日。○七。○年。○五月。○十日
石。○山。○九。○原。○米。○二。○百。○石。○物。○小。○由。○事。○信。○日。○云

八月九日死年八十一歳同寺

信澄

平左衛門

平八

寛文四年六月廿七日初見。享保六年正月廿九日大津藩。貞享元年八月十八日移藩。日田年七月五日父由緒歿。元禄元年八月八日父由緒歿。元禄元年七月九日由緒歿。日田年七月九日由緒歿。

五月九日大津藩。享保二年四月廿二日死年一歳同寺

信秋

平左衛門

元禄十七年二月十五日初見。同六年四月廿二日大津藩。享保二年正月廿二日父死同寺。同六年十二月廿九日病歿。延享四年九月一日死同寺。

八月九日死年六十一歳同奇

信澄

平左衛門

平八

寛文四年六月廿二日初見。享保六年正月廿九日大津藩。貞享元年八月十八日初見。日四年七月廿二日父出陣。享保二年七月廿二日父出陣。享保三年七月九日大津藩。日十年

五月九日大津藩。享保二年四月廿二日死。年一歳同奇

信秋

平左衛門

元禄十七年二月十二日初見。同六年四月廿二日

大津藩。享保二年正月廿二日父死同奇。同六年十二月廿二日病死。延享四年九月廿二日同奇

信要

二郎左衛門 多昭

実国姓新七郎幸在二男

養子○享和四年十二月一日改智○寛延元年八月十三日大山島○明和三年十二月廿七日新山島○安永七年四月十日死
年一歳同子

信將

平右衛門 伴成

実内友甚右衛門忠珊二男

養子○安永七年七月八日遠行○同八年六月一日大山島○寛政五年五月一日山島○同六年十二月廿七日代友○同七年四月十九日相州上野元五郎三

信紙

毎之冊

寛政八年十月廿九日 重子素後五帖二

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院教所代

竹内

源姓

高二百俵

家紋

丸目横木丸
三柏

竹内平右衛門信正二男

信親

新五三俵

老安四年十月新五三俵
半人組〇万治二年日永出納戸次女〇寛
文元年二月出納戸組次〇同四年安

貞享八年三月徳和君入封
附西飛鳥出納戸出敷○徳和君出納戸
一同小普傳入○元禄八年三月五日
○同六年八月八日死享平一系同寺
普守之變

信由

新玄流

元禄八年十二月八日家持○同七年

月六日死平一系同寺○同六年

信之

孫三郎

又平次

元禄七年七月六日家持○享保十二年
二月廿七日半人組○元文元年七月
朔日死平一系同寺

信諸

新五云浦

改六郎

元文元年十月三日歿。○延享三年
五月三日歿。○寛延三年十月
廿九日病歿。○宝曆十年正月廿三日
歿。○日正年八月三日歿。○
同十二年十二月十五日

若君附。○安永五年九月晦病歿。○
天明元年八月三日歿。○日七年七月
十日。○死年五十五。○

信元

新十郎

令五郎

安永元年正月廿五日歿。○

安永六年五月廿七日歿。○天保元年
八月三日歿。○日正年十一月廿三日
歿。○寛政六年正月廿三日歿。○
享和元年十二月廿三日歿。○

表有
第憲院教所代

竹内

源姓

高三百千俵

家紋

源氏車
四目格

竹内持守女孫尚治相臣後亂甲賀郡
持物倉長者九代

正勝

平七丈

万治三年二月廿三日新親古公九代因
涉殿半人組百俵下○同年七月朔

同不出居者為之及百十儀之加秩。
延享五年十月廿八日病歿。○同七年十二
月晦病止。○元禄六年六月七日死。以千
七歳。知子孫福。子孫。

常憲院殿冲業伯凡

天祿俊 梅雪 彦

竹

天保十一年

正盛

平左衛門

寬文四年二月祿田涉殿書院。是
至七年十二月晦日家督。○天和二年十
月又日死。年八十。同子。

正祥

平左衛門 十月

美正備二男

天和二年十二月十九日養子家持○元禄
七年八月廿二日相○同年同月
廿九日所書○正徳八年七月三日死年
八歳同寺

正生 小平次

宝永六年四月六日大所為○正徳八年十二
月二日所書○元文八年八月廿二日所書

出所為○宝暦四年十月十九日所書
在○同六年三月廿二日所書○同年
三月廿二日所書○正和元年四月十二日
七年二月同寺

正峯

平左衛門 次郎三郎

美石原頼母政敏二男
宝暦六年十二月廿六日所書○

明和元年四月廿四日大納言○同二年
七月八日死○年八歳同寺

淡五郎

正義

実豊原佐太郎後房二男

明和二年十月六日死○年六歳同寺

五月廿七日死○年一歳同寺

正相

小平次 徳五郎

実松平左衛門信村二男

明和四年八月八日死○年六歳同寺

元年七月廿七日死○年六歳同寺

四月廿七日死○年一歳同寺

正武

平九惠

八之忠

天保六年七月日家持○寛政四年
 九月廿八日初見○同六年二月廿七中里
 宗馬○同年六月廿二大由島○同八年
 日下之半^堂的互初二○同九年二月廿五
 累の時後二

東照家御代

竹月

高古百石

橘姓

家紋

九三柏
五七桐
七本首存

先祖不詳竹月又之在處古安之男

古安

又六在處

東照家三別^三方成津我言古酒井在處所
 忠次籍下之津陣等之相初方家上之
 夜之依○三別^三付記之也云云改新成

陽人弄

吉備

源有馬

天保八年

東照宮に在りし石例に付、原米二百俵。
大由為。○大由の産米約加授百俵。○兼
無二年八月朔、^喜死、^七年三葉、^才也。宝泉
寺に在り

吉明

又右馬

冥中津之権助正和二男

寛文八年大水、由百石十俵。○由是米石
十俵、不三年、月日勤之仕、右年限、勤
ノ付、寛文十年米地二百石、約リ、一石米
原米二百俵、米地、月日勤、合、四百石、
○日安年二月十日、死、年三葉、同子

幸和報

七郎左衛門

寛永三十年七月（寛永三十年七月）家老（家老）の老安元年
六月（六月）の事。實又元年十月（十月）の日組
より同年十二月（十二月）の日組に任じられた。天和
二年六月（六月）の事。二百俵と加増された。元
禄三年十月（十月）の病死。○月十二年八月（八月）の
死。享年八歳。男。

幸元

七郎左衛門 新五郎

延宝六年三月十九日（延宝六年三月十九日）の事。性組。元禄十三
年十二月（十二月）の事。八百石。自二百石と二重
十石（十石）の事。○日十七年二月（二月）の事。死。男。

貞侃

植原令左衛門

元祿十年六月十六日尾張中納言殿新親
御出

幸政

又郎左衛門 主後 又三郎 浪忠

實是合捨律子顯行三男

元祿十七年四月廿四日 永徳寺 享深尺
年十月十八日 永徳寺 同二年 火之
夜 永徳寺 永徳寺 永徳寺 永徳寺

甲子日 元祿十九年 寶曆九年七月廿一
死 卒 二氣 同寺

幸政

又三郎 永徳寺 永徳寺 永徳寺

寶曆九年九月廿四日 同寺 同寺
初見。日十年三月廿四日 永徳寺 永徳寺
十二年十二月十日 永徳寺 永徳寺
廿二日 永徳寺 永徳寺 永徳寺

寛政六年甲子九月廿九日病歿。同日午時月
廿九日卯時六葉同日。

幸俤

又立左衛門 良助

美小公大助照方二男

卷子。寛政十年七月甲子家傳。同日
年十二月廿二日初見。

梅田清成

竹内

高立人技師

源姓

家紋

十五枚笹
九角本丸

先祖不詳

信友

松垣

元禄五年三月梅田清成上出公女枝
持。同十二年。同十六年近白根七枚記
ゆへ。

文照院殿西丸、為入、小菅信。○享保九年閏四月、被位。○同年五月廿九日、死。十谷大西等、受。

信富

元的

元小菅信方氏
寧下系幸在、某三男

正徳四年十一月、養子。○享保九年閏四月、被位。○延享三年六月十八日、初見。○

寛延元年八月廿七日、死。年七、某男。

信成

圓壽 元的 子太郎

寛延元年閏十月二日、家被。○寶曆八年十月廿八日、初見。○明和三年十一月、被位。

景屋

道典

實大橋養三某長男

町醫師

明和三年四月十日養子養子。○同年十二月廿日家持。○同四年三月之朔見。○安永十年正月十九日早卒。同卒。

富宣

興彦

實安因武部某長男

佐州町醫師

天明元年四月十日養子家持。○同年三月之朔見。○同四年十月十日早卒。○同五年所出役。○寬政元年二月十日出役。○同年八月三日早卒。同卒。

淳政

元壽

増之助

實杉野清九郎淳重長男

室門改同公

寛政元年七月九日庚子養子家持○同
二年四月乙卯初見○同七年五月十日
紀
平兼國子

軌淳

元育

二之丞

元忠 平野之郎左衛門尉二男

寛政七年十二月廿日庚子養子家持○
同八年四月乙卯初見

老有院殿中代

竹内

高二百石

橘姓

家紋

九月二相
七本骨存

竹内又右衛門右兵衛尉又郎左衛門幸和
二男

幸行

十卷

安永六年二月朔乙未出丸二百俵納り
大由為○天和二年十二月廿二日相納る由為

○同三年二月廿六日大原為○父幸知り
三原より地云々二百餘石云○寛永二年
二月廿九日没仕○正徳三年七月十七日死
牛込宝泉寺

幸全

甚在馬

實控太市在馬 泰重二男

寛永二年同月廿九日没仕○同年十一

女九日没仕○寛永二年四月五日大原為
○寛保十七年九月十七日死同寺

幸廣

十玄流

寛保十六年五月廿五日大原為○同年七
年十二月二日没仕○元文四年二月八日
水腰物方○宝暦五年二月二日水腰補
為以○同十年四月西丸勤○同六年

八月三日一統小童徳○同三年同月廿
山廣末為之氏○以和八年十月廿七
勤○安永六年四月廿四日老免令三枚○同
九年二月廿七日死同寺

幸長

幸長

七郎重○ 左在重○ 十玄清

冥同姓又六在重○ 幸長三男

養子○安永八年十二月十九日大出為○同

九年六月家智○天明二年七月二日
由廣末為之氏○同六年同十月廿一日
中凡勤○寛政元年正月廿八日娘居所
○同年八月廿七日死同寺

幸隆

新八郎

實七政元臣邦牧二男

寛政元年四月二日葬養子○同年七月

八日亥時○同二年四月廿七日大出書

幸刻

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

清江隱居

竹月

酒姓

高平儀五人扶持

家紋

九月考

竹月侍臣郎善信二代武助善直東殿心
奏者段相勤善直養子

善壽

半十郎

五八郎

亥

石井元左衛門某男

享曆十二年七月十八日少佐上右出書○

日光所拜忌出法令。食勤毒。○昭和八年
四月出継事。方役役。○遠國出用未定。○
安永十年二月晦日出継事。下在。○
寛政二年十月廿二日。小重信。○同八年
四月廿八日。死。年八。弟。东。敵。公。護。國。院。
變。

善明 九門 八百三郎

寛政三年十二月廿二日初見。○同八年七月
三日。安。終。○

東照宮御代

竹中

源姓

竹中三郎左衛門重氏

遠江守

重元

齊康公城守公左衛門三右衛門重元
年五十五歲之御郡 志子役人 志子

子又中石

家紋 丸月九枚 每石條

男 元祖

彈正・錢昭利は、日二年日所
善持ふ。城と築石被邪。子
費文の他と似る。日二年二月七
日死。孫三系名。孫懂守。小孫

出服。初産在焉

重光

天正二年八月日名。死行

奇。之。矣

重利

伊達子

初原也

子名。と。し。れ。若。日。の。取。り。と。し。て
伊達國並に城を築。宗家母後と
重利の後。と。し。て。重利家。と。し。て。凡
そ。方。石。と。し。て。長。年。中。重利家。と。し。て
東部。と。し。て。伊達。と。し。て。行。新
の。取。り。軍。使。と。し。て。初。日。は。年。九。月

美濃津陣の事
田代と徳川
東照公に志すは
右に記す
同土府内
城は

赤女心

重義

北条公長子の事

重定

世の事
今竹中水馬定格
園防
和奈能
貞吉

重治

半兵衛尉
重治の事

幸ありしと記さるる浦射十九年八月廿
二日午後三時人水禄七年二月八日
改皇族と近入南番の奇友死澤とと
半々浦射自身討たるる浦射と討た
終に城を抜て河内國家より改城
後より一と夜と一とととととと
り中浦とととととととととととと
浦射浦射とととととととととととと
河内國家より豊臣家へ身方討たる

天正十一年、豊臣の領、織田家の領
一、口七年豊臣家格別お向の
討て来の陣中、わく六月十九日
二十日、本ら本郡、本井村、中
尋

重隆

久作

織田家の領、一、元龜元年六月廿八日

河名婦川金銭を陣しゆりの銭を
浅井の家人を養ふ事と付せし
兼く流人より口を九を養ふと付
五かひの長條の陣より徳田家の傳
信より天正十年六月廿一日に徳田國
石波郡長谷村より討死す千七条
是より福懐守と葬

末

其古事

天正八年濱河太八郎大匠より
死

末

其古事

織田家は天正十年六月廿一日信忠の
信より末之系に討死す千八条

末

母清子幼古事

父死その後知年より此地と賦り
も善花心の誠より今の代より信
貴臣家よりは天正十一年十一月
に教書附一母後より孫とのり
東照公ははくも長久保九月園系
合戦の事記若くはよくとる所のは
しるしに江戸参判の御書より
おる江戸参判自兼徳よりとる
陣より江戸参判の御書より

陣中より信より一園系より
小物御書よりとる御書より
江戸参判の御書よりとる園系より
取次その他より世より江戸参判の御書
御書より信よりとる御書より
おのひより御書よりとる御書より
とる御書より信よりとる御書より
とる御書より信よりとる御書より
とる御書より信よりとる御書より

西條より同十二年改府よりその府の
津城造更のりたる候が本意より其本
代りの治と知し同十二年尾別名
復元の津城更築より又おのり改の
地より初候より同八月廿五日
東遊より其意より其書より同十二年
二月廿五日
名津城より其地より其書より同十二年
二月廿五日

と稱ふは同七年より此の
諸府より其地より其書より同十二年
年十月家後より其地より其書より
江戸より同十二年元如元年
左に其地より其書より其地より其書より
大蔵院改清上洛のりたる候が本意
永元年より同十二年より其地より其書より
のりたる候が本意より其地より其書より
頃より其地より其書より其地より其書より

石を合さく六千石の沖村を
物に五年四月

五帝新沖落の信を九月二日

行幸の時お祈りし八年四月

九月死す九歳其泉岳寺山内

儒壽

執中より竹筋た京

重常

長九年壬午秋見く初ん

つ大坂の陣父とたふ信を寛永

七年七月

大坂に敗つて落の信を四月

朝鮮人丸禱のり紀美濃國出羽

船橋掛後追用ありし信を寛永

二年四月

甲辰の如きのは十七年より十八年まで
改元はなしに 汗文は常清清用の如く
二年より八年はくは別遣ふ
汗文は常清清用のは八年に別遣ふ
この武方の首九程は石ら中余の如地は
少くもまた二年より八年まで初め
の兼應三年の御人余侍の時を亦
小徳に母持は田園をふ園の亦も初め
の八年より九年はくは六年の如

御書送るは汗用は年二月の如
御書より御書長之の汗を力に
従は下紙中より叙任の寛文四年
七月四日乙未の如くは死に程七歳
日新禅僧守も年

重次

三十一

乙未十七年乙未の如くは
乙未の如くは

重利

権佐

右衛門殿 大猷院殿より初年寛永元
年中書信あり同日三年四月
大猷院殿評落の位を道中宿別
口五年七月八日死芝泉岳寺葬

重高

左京

右衛門

慶長三年十月初八日寛文元年八月

同元年四月初八日寛文元年八月
六年九月二日死日経大乗寺芝泉岳寺
埋葬

重長

左衛門

右衛門

寛永三年初八日同元年十二月六日家
持子天和元年四月九日初八日家
口所天和二年二月十日死芝泉

日守年

主膳

之助

重榮

和治珍之傳

波江波山

實加友民部重貞男

加友初相と春具の長

天和二年二月十日百廿五の日守年三月
六日卯時同日守年二月七日初九の元
福之年二月十日初九の元

日守年八月九日由田信左衛門次金澤市
西飲日守年十月十日百廿五の元僅之
物解人未禱の時立所母信ありし
園系く先格の初は日守年
七月十八日波江村發油の波江家屠
十年二月十日百廿五元僅之元守
小守年

母後与 元之而 上京

元敏

始重頭 尹重 治行

宝永三年十月廿一日 初之 享保白
年七月十八日 家務の日 又年二月
十八日 初之 上所 西海の日 十八年十
一月 日 山 書 借 松 平 七 席 左 馬 事
名 采 淨 飲 日 平 年 八 月 八 日 表 向
出 礼 日 之 又 三 年 二 月 廿 九 日 淨 飲

加 者 侍 者 乃 忍 飲 柱 九 席 以 全 家 中
出 飲 日 年 日 月 廿 九 日 柱 九 席 左 馬 事
り 乃 之 定 享 三 年 十 月 廿 九 日 柱 七 席
左 馬 事 者 一

将 軍 官 下 以 教 之 出 飲 之 免 之 心
日 以 家 年 約 解 人 本 務 乃 乃 之 主 事 之
心 所 取 得 之 心 淨 飲 之 初 心 之 寛 之 是
日 年

有 德 渡 飯 淨 飲 中 上 野 淨 飲 大 臣

○宝曆三年二月廿八日大宰府に
七月廿日大宰府母境に○同日午
廿日大宰府に書あり死に
○大宰府に書あり死に

之昭 厚進

元傷

元傷 元條

元文元年十一月七日初日

二月廿七日神宮の時に
年十月には日
十月廿七日に
二月廿七日に
二月廿七日に
二月廿七日に
二月廿七日に

元恭

元康

元康

實名若母殿と忠意口書

明和三年四月廿七日
十二月九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日
三月廿九日初見の月年二月廿八日

元寬

元智

元康

元康

實元恭口書

本水之年四月廿八日
天保元年二月六日
年十二月廿七日
二月廿九日
三月廿九日

家茂石解の竹中本を河村重定
如陣のとれた字を其の傍解と
懐中に入るとりて其の傍解と
は中々それかの傍解を其の
て着いとる人其の傍解と
右の傍解を其の傍解と
とる竹中の傍解と其の傍解と
つる傍解と

東照宮御代



竹中

言子或百之孫茶

源姓

家茂丸内九段毎
根毎

竹中出陣者重定次男

周防守 初又御代 貞定

重定

如左の家を属し軍切の字のり
織田の家は豊臣家の共力に附る

東照

永禄六年八月佐々木政の討集
城を定めて一城を破る。同日
八月十日佐々木道成と政の討軍
討りて同士の國自天を都を捕り
八月十日の傳を報りて討軍の傳を
會員存し半年少くを力打と討ふ
手定敵飯沼劫平市橋九郎左馬頭
小太左衛門伊賀守と討つ。元禄
元年六月江戸別婦川合戦

織田の先鋒として敵陣に侵入首級を得
○天正六年七月條合戦の事
東照の先鋒として信長と戦ふ事
秀吉と居て武田勝頼と合つ。同日
年毛利と戦ふ。馬場と戦ふ事
七月秀吉と戦ふ。八月十日討つ
就大と戦ふ。秀吉の先鋒と戦ふ事
竹中伊直と戦ふ。八月十日討つ事
同討つ事定めて争ふ事と傳へる

時^りの^り九月^に月^に國^の領^の名^を取^り
伯^の存^のの^り取^り不^し念^の念^のの^り城^を青^くり^しに
境^をし^て軍^切り^しの^り日^に年^に六^の月^にの^り
智^の計^のの^り所^をし^て先^に使^しと^し初^め
の^り日^に年^に二^の月^に東^の田^の勝^の家^の志^の津^の藤^の
全^の我^の一^の敵^のの^り途^を折^りと^し先^にの^り
使^しと^し初^めの^り日^に年^に八^の月^に山^の田^の東^の陣^のを^し法^を
奉^りし^て東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の

小^の使^の地^の領^の名^を取^りし^て東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の
東^の屋^の家^の大^の使^のと^し初^めの^り日^に東^の屋^の家^の大^の使^の

同日防中重定六人奉りしりの若長
お五年九月関ヶ原公戦
東照文の御氣色うらふしと福徳
湯田史別津をゆり日姓は
湯田史にまうつこも大坂陣の
とらふとも日年二百り
東照文は位先和武の御旨右と有りに
ゆり湯田史は日十三年八月
主計政の原右一が右北陸を治む福

湯田史は史別と振替りしり相
伴加り湯田史の日年より
日十三年四月より
之を湯田史の御旨
毎

重房

七年

孝長子六年九月卒の時り

東照文公の御遺言に於ては、同六年四月

五日、^{又た}御智辯の御府あり、忠性

の御遺言に於ては、同六年十月八日

死に於ては、同六年十月八日

死に於ては、同六年十月八日

内膳

重長

尾張府家人のり

貞右衛門

重賢

元和元年家督并合の定家五

年八月廿日死に於ては、同元年

養子とす

監物

重職

寛永九年十月廿九日
福平公年七月七日死
葬

重富

久五郎

之孫
公月廿日没
死

小舟

因防

初井

定規

實松

家
年二月廿日
日家
公

○同年十二月十八日布衣の以九年二月
大日守府城清を以て後八月八日服
○以九年二月十八日是奉所行首
其日殺害因防ち○以十三年四月
日之江江系の時津張飯少く時
服之服威おれ○以十六年日之
津津又 津津府用二月十七日
○同防少く時服○以二十年二月
十日山菅清理之配○寛文五年二月

十有名家のとはり出役少く分令
少く先和以年八月十日山菅少く分令
曆五年二月十八日死六拾九歳而余
不養守に事

定弘

主水 初久太郎 監物 大守
享保十九年十二月十日初久の元文
二年九月廿七日

清明院御清宮系の時少人跡るに
供。宝暦六年八月七日家督心
曹請。元和二年十月廿九日初元
書院。安永九年正月十日度
。同年十二月十八日布衣。天保四年
八月六日後府。同月十日是服。
宝政三年十二月廿日病歿。同日卒
七月廿七日。後はのり利。後送。同
七年十月二日死。七。後。同。

葬

小倉

定流

宝暦十二年八月廿二日田女殿
大書に。小倉。切

定格

求馬

天保三年十二月廿七日。定政

二年七月廿七日
六月廿七日

[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

嚴有院殿御代

竹中

源姓

三千石

家紋丸九枚卷
石解

竹中義中守重常次男

大膳

長八郎

重之

寛文四年十二月
○日七年十二月

天和三年姫路城門後之元禄元年
八月廿三日使番の以て年改府也
同日の以て年病死の以て年二月
廿日死に給九条兼光泉岳寺葬

重之丞

重紀

実行中御中と重之丞の御

天和三年十二月長子之元禄日

年十二月京村組の日之元禄九月
冒死之難九条兼光泉岳寺葬

重之丞 在荷

流仕仕格

之美

實如右長部重貞二男

元禄十三年十二月廿日長子の日之
元禄七年七月廿日初見の日之元禄元年
七月廿日初見の日之元禄元年七月廿日

山書院西。享保二年。二月。五日。旨
志別名。時。城。引。渡。日。年。二。官。集
八。日。津。原。書。日。中。二。年。病。死。日。中。二
年。日。月。七。日。改。任。明。和。二。年
十。月。廿。日。死。以。後。之。年。因。年。壽

長公師 全之助 母文

元祖

改任 系元

享保六年十月十日。初。子。因。子。因
日。月。七。日。家。督。元。文。二。年。十。月
廿。日。初。九。日。書。院。書。日。中。二。年
七。月。廿。日。出。生。人。改。家。督。二。年。二。月
十。日。西。九。日。自。身。日。中。二。年。二。月。十
日。出。生。日。中。改。任。以。明。和。二。年
十。月。十。日。病。死。日。中。二。年。四。月。十
日。改。任。日。中。二。年。十。月。廿。日。死。以。後。一
年。因。年。壽

元長

元八席 豊二席 齊一

元上田徳次郎と義高の事

元長元年正月朔

元長元年正月朔日 年上長子の初

元年正月朔日 年上長子の初

元年正月朔日 年上長子の初

元年正月朔日 年上長子の初

元年正月朔日 年上長子の初

元長元年正月朔日 年上長子の初
元長元年正月朔日 年上長子の初
元長元年正月朔日 年上長子の初
元長元年正月朔日 年上長子の初
元長元年正月朔日 年上長子の初

元八席 中 全一物

元道

元道元年正月朔日 年上長子の初
元道元年正月朔日 年上長子の初
元道元年正月朔日 年上長子の初

以三年二月廿七日合進野馬

Faint vertical text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

有徳院殿神代...

竹中

高五百石

蕉原姓

家紋

釘貫
九月辰打邊

竹中茂玄正長二男

茂玄湯

虎之助

要人

正賢

享保三年七月廿八日新親石出、小藤殿
附原米二百俵納、同十二年二月十二日
少性、同十六年十二月廿二日布衣。元文

三年二月十八日田安用入。○定享三年十二月十八日小性改加授二百石合兼他五百石。○同三年十月十三日所附也。○同年十二月十日及小性改兼。○寛延三年六月二日死早二歳牙已著國寺為父所附也。月海目不在類。

正義

要人 虎之助 外記

寛延三年七月女又日新親石出仁五百

石出重信。○同年八月二日田安小性。○宝曆七年七月十二日用入見習。○同年十月十一日用入。同享十二月十八日布衣。○明和六年四月女又番改助小性改兼。○同八年七月四日大藏之殿附。○安永元年十二月廿八日番改小性乃重。○同二年四月八日例用入。○同三年十二月廿二日早二歳同寺發。

正香 主格
正装

藤三郎

月通

△明和七年 月

実西殿二男

安永二年五月甲子。貴子。○同八年三月。曾
家。○同年八月。名。○天保五年二月
廿八日。因安附郡。○同年八月。名。○
○同年十二月十八日。布衣。○同七年十月。方
貴。○寛政八年五月。廿。西。水。裏。出。門

為之。○同八年十二月十日

大納言殿附

東照宮御祭文

五竹亭

高田百景

藤原姓

家紋

虎角打世

瑞守府將軍武彦守秀卿後胤

正儀

九郎在馬

東照宮左右出言二百條の慶長五年
七月死

正勝

茂去儀

東照宮に降得大由書。○紀伊大納言殿
此為所町奉納。○寛永元年二月八日死

正時

猪太馬

右徳院殿に初見。○大由書。○万治元年

去月廿日記

正清

八左馬

侍仕心休

大徳院殿に初見。○寛永十三年大由書
二百番。○慶安四年加秩百俵のり。○律田
清原少佐院。○二百俵加禄。○万治元年正月父正時跡或ハ
才正参り。○別家。○寛文五年
正月朔。病死。○貞享三年十二月十二日

没仕。元禄五年七月七日^死。七十歳。早稲田
宗久寺葬。

正宅

孫右衛門

常憲院殿。初見。元禄七年六月十日
相。同出書。

常憲院殿。御業。拓蓮。繪。水画掛。孫
頌。大出表。元禄七年七月。官。原。末。七

未地。勢。初。見。正徳二年四月九日病死。
同三年三月。方。死。因。寺。

正節

甚八郎 八左衛門

實大升三郎在室。滿洲之男

元禄年中。年。去。古。子。正徳二年。六月。晦。
家。身。同。年。七月。方。初。見。享保二年二
月九。大。出。表。同。十一年三月。火。卷。勢。子。同

平年八月廿二日二條死。年九。葬。京。水。通。慈。眼。寺。葬。

正永

惣十郎

源 樂藏

享保二十年十一月八日家持。○同年十一月
十日初見。○明和三年五月四日出家。○安
永四年出家。○天明元年十二月廿
二日病死。○同二年七月廿七日没。○同三年

三月廿七日卒。年六。葬。京。水。通。慈。眼。寺。葬。

正陽

主税助

友之助

明和三年七月朔。初見。○天明二年七月
廿七日家持。○同三年八月十三日出家。○寛
政七年二月五日没。○水。通。慈。眼。寺。葬。

正衍

茂左衛門 辰三郎

実近公六左衛門安親三男

寛政四年九月廿八日生。同十年四月
女九。大御前

五男

大教院

竹本

高二百石

藤原姓

家紋

訂貫
栝梗

竹本猪左衛門正時三男

武玄清

正彦

崇安三年八月三男。新親正公。元中
同年十二月十一日生。兼應元年十二月
廣末百石。万治元年十二月八日生。

西清別墅三石堂之北一ノ父疾持二百石
五年唐米八石云。天和三年十二月廿八日
液多水溢在約。元禄二年四月廿二日
五。以。同。年。十。月。十。日。病。死。○。同。八。年。六。月
二日死

正森

四郎五郎

實山角四郎名勝右之男

正安五年十月十九日聲去。○初。元。元
禄八年七月。○同。年。元。元。納
○享保二年八月。○同。年
六月廿八日勤方不綱法。○同。年
傳入。○同。年。元。元。納
同十月廿八日死。元。元。納
○享保七年九月廿七日。元。元。納
上院元寶令。一。枚

正方

文内

実海守七郎彦彦綱男

正徳三年年表子。享保十九年二月廿

八日病歿。年表息。从除。寛保三年二月廿

死。享保三年正月廿

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

正頼

武彦

徳之助

享保十九年四月廿

享保十九年嫡孫兼祖。同廿年五月廿

元年。元文三年二月廿。大正

元年。土月廿八日。西元

十二月廿。病歿。同七年十二月

〇安永三年九月。歿。死。享保十八年

正利

九門

徳吉郎

宝曆七年十二月十日家督。同九年又
年七月大出。○明和二年十月廿日病死
○同六年十二月廿日大出。○安永二年
十二月廿八日病死。○寛政四年四月七日

波仕

正吉

武吉郎

寛政四年四月七日家督。同八年七月
廿日病死。

百位

院後

竹本

言三百條

及原姓

家故

打費
九月扇打遠

竹本茂三郎正成三男

傳在

孫孫

孫吉

正孝

於此任事新和二百石下白家同心嫡子
以右馬門正伴元禄八年十月廿九日部屋信右
對心教出小性身作月別表成 故東使情

在馬其爾皇子郎正次子長子也

正仲

備後守

澤左衛門

元祿八年十月廿九日於此任心對心教少將
○同十六年二月十日陪高唐來三年石下
○享永三年八月八日寄合組○正徳四年
二月十日長福衣出進の事○享深元年
八月廿二日出仕○同年九月九日出仕

享永三年二月十八日常夜○同十八
年七月五日小納戸段九○同年十二月十八
日叙爵○享深元年二月十日病死○元文
二年五月廿八日西九小納戸○寛保三年
正月廿日死年一歳小日向院與寺葬

正經

采馬

懐信院殿正經見○寛保元年七月十八日

西丸山少納戸。○同年十二月十八日布衣。○同
二年正月三日家持。○定享二年九月朔。
山本九勤。○同年十月十七日。死二十三歳。
同子。

正恒

隼人 未女

寧同姓大格亮正綱男
定享二年同十二月三日。養子家持。○同三

年六月十五日。初之。○同年八月三日。少納戸。
同年十二月十八日布衣。○寛正四年八月十八
日。初之。○寛正二年五月廿五日。
後以院殿少亮。酒湯。出。院。之。
信院殿。より。令。之。校。時。後。二。下。○同。年。
正月十三日。清。信。より。同。年。六月。時。後。三。○安永
二年二月廿六日。少。取。手。○天明七年七月廿六
日。少。取。手。在。高。○寛政六年正月十六日。
貞。恭。院。殿。清。道。殿。紀。別。考。之。又。守。

清徳元年二月五日
清徳元年七月十九日
清徳元年七月十九日
清徳元年七月十九日

正倫

采女 彦平郎 楠佐吉

安永元年十二月十八日初見
同八年四月十九日
同八年四月十九日
同八年四月十九日
同八年四月十九日

勤
年九月
年九月
年九月
年九月
年九月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

表有院 高五百年石

竹本 高五百年石

家致 九月廿二日

竹本猪吉郎 正尉三男

[Small handwritten mark]

正茂

慶安四年十月五日新親下出。林梅田
所敷出持与及康来二百平法。仰。
延宝七年二月廿二日死谷中玉林寺

嘉永

後存

宇左衛門

次郎左衛門

津徹

延宝七年七月横田の政務所小性組。天和二年九月廿二日納戸。宝永元年十二月丙戌横田。同年十二月九日布衣沙。本九勅。同二年四月加杖二百石合五百六十石地方。正徳二年十月十七日落後

津徹

有章院殿津代津の如く津納戸

○正徳六年五月廿六日寄合。享保元年

十二月廿六日仕。同六年七月八日死。同

文昭院殿津出兼水色紙由程冊寄伝

自續後

正武

在肉

宇左衛門

正方 寛安夜子郎三歳字子二男

参上子寛保二年二月廿九日享保四年十二月廿日安堵同

田月廿日初見。同九年十月九日中書院

。同年十二月十八日西元勤。寛保二年

十月十日。福元。延享元年四月廿日

社。同二年九月廿六日死同子

正方

在月

享保四年三月十一日初見。延享元年

月。秋。同。同年七月。死。同。同

組。同二年。同。同。同。同。同。同

寛延四年。同。同。同。同。同。同

三枚。同。同。同。同。同。同

同年十二月廿八日流瀆。同。同。同

。同八年二月廿八日死。同。同。同

正春

武節 宇右衛門 茂玄清

宝曆八年五月六日。改定。○同年十月九日
初見。○明和三年八月九日。為中書院。○
同八年二月廿二日。的時。於合之。○安永
二年八月廿七日。的時。○寛政二年四月
二十日。九勤。○同七年二月八日。少令。疏。○
○同八年十二月十日。為九勤。

正福

門之忠

寛政五年四月廿九日。少令。組。

東照宮御代



竹下

高五平石

源姓

家紋

丸打費
羽槍後草

竹下又八郎正綱惣所

光政

控在

又八

天正十二年秋冬別古書に

台徳院敷所古書にありしを所出小姓の

為るに荒々成仕奉る

東照宮御代よりとある。○孝長年中未だ
西下石御りり相次是田村より其後
武州八王子町に仕立の仕立御代に於
て、其を公事樹末も仕立其を御代
好指より仕立御代

台徳院殿忠川越、御代其の御代
所意、御代其の御代其の御代
丸自ら御代其の御代其の御代
日野五門坊西も御代其の御代其の御代

切少、御代其の御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代
元和元年八王子新親御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代
御代其の御代其の御代其の御代

○大徳院殿御代八王子御代其の御代
○明暦元年二月廿八日死半三氣武州八

子文善寺

望正

檀石

明曆元年七月庚戌日山内洞動。寛文七
年十月丙子。元禄七年九月同寺

望任

檀石

寛文七年十二月五日家督山内洞動迄年
之清書於屋上放燭二千刺聚燭十刺由是
元年之山内寺也燭傳供由是武別八形之山内
於屋上於山内八王子相建於合早刺成。
延宝八年七月廿二初見。天和三年二月
山内洞用之。元禄三年八月山内
地月致。貞享三年十二月八日山内寺方所用
無之。元禄三年十月廿一日
元禄十七年山内川光寺

正考

檢考

至永二年二月十九日改智。○享保元年
九月出魯道。○同三年六月出魯道。同月。
○同年十二月半人物。○同五年九月出魯
道。○同十九年十二月廿五日改任。○至曆七年
二月九日死。半之。同寺。

正考

又八郎

享保十九年十二月廿三日改智。○元文元年
四月九日右出魯道。○同元年七月廿八日改任。○同十二年
九月十六日不用。○同八年七月納
戶。○至曆四年七月十八日改任。○同十二年
十月十日。同月。○昭和六年十二月廿八日廣安
用。○同八年七月。大。○同元年七月。安永。

正豐寺

正豐

五在寺

三年九月大德之教漸去... 天德元年四月廿三日廣安用人... 八月廿九日... 天德七年六月... 十... 慶... 宣... 三年六月廿... 先... 同... 七月二... 田... 安... 慶... 十... 日... 月... 十... 日... 此... 年... 一... 年... 同...

享保廿年三月... 新... 規... 古... 也...

正德

藥心茂...

享保二年八月... 茂... 托... 入... 藥... 心... 茂... 節... 家名相續

正孫

授在寺

寛保二年十一月一鶴山院、新親王公

正良

控助

実日氏古名正良也

宝曆六年七月八日養子。同年十二月九日
初見。安永元年十二月十九日少人組。天明
元年十月八日大の時後。寛政二年十

月...

竹本

高千八百石

源姓

家紋 括搜 丸三

高田藩御子義遠三男主膳正政季八代
外記長重柿原或頼大補属其後今川或二
仕其子佐次為長之柿原家任長之
男

某

玉計

由家 瑞輝

常憲院教津後生之御名出

日死
桂昌院教津年考宝永四年十二月廿六

長直

次九走

久米之助

後長直 出守
常憲院教津代出廣吉添番二百名凡
言百名十俵○元禄二年十二月十日三九所
廣吉書以加秩百俵○同九年八月廿二

加祿百俵地方以下全云云

桂昌院教津用之○同年十二月廿二日布衣

○同十年十二月廿二日二百名加祿○同十二年

十月朔。口首及十名加秩合子衣云云○同十八

年正月廿六日叙爵○同十七年正月廿二日

五百名加秩○宝永二年六月廿二日叙爵○

同三年六月廿八日叙爵○享保五年九

月廿七日病乞○同七年七月十二日死字

兼南品川東海子月長松院矣

長育

二男

次左衛門

徳之助

大徳

貞

享保七年十月四日家書○同九年十月

九日小姓組○同年十一月十五日

大綱之教訓○同年六月朔日西丸出書

院書○宝曆八年十一月廿八日出紙子同

月廿八日布衣○同年九月十日記五十

兼同子

長景

次左衛門

徳之助

秀之助

美大目忠利二男

宝曆三年十二月廿日養子○同九年十月

廿日初見○同十年十一月四日家書○同

十一年十月十六日小姓組○明和六年二月

廿日小納戸○同年十二月十八日布衣○同

八年十二月廿日信与同七日時辰三○安永

二年四月四日相州鎌倉上遠馬同月九日

及相三〇同五年四月是光也〇同六年
五月二相及豫余上在三月月日五移三
〇天明三年九月廿八日配字六兼同寺

長暉

次在馬

秀

安永九年十二月廿二日所目是〇天明三年
十二月二日改移〇同四年五月十八日是納
戸〇同年十二月二日為納小納戸〇同四年

安永九年〇同六年十月十七日所為也〇寬
政七年三月廿八日令也〇同九年七月
廿八日馬川渡時後三

東照堂神代

正竹

子石

後原姓

家紋

打費
九角扇打透

五 先祖不詳竹平九八郎正重二代

茂玄清

正吉

東照堂

台德院殿中在任○孝長十七年於駿府
賴宣以上為附○天保九年六月三日

武州三百名御入。紀州御入。百名加秩二
百名。町奉行。寛永元年十月。紀州
紀州。松平。松平。

正次

猪左衛門

右徳院殿。左任。左筋。不詳。

正成

茂左衛門

傳左衛門

休悦

右徳院殿。沖代。大小。性。二百名。父。左。下
大坂。少。傳。出。伏。寛永元年十月。紀州。奉行
五百名。大。出。番。組。及。紀。州。御。入。百
治二年六月十七日。紀州。奉行。松平。松平。

正清

八左衛門

右。出。左。任。左。筋。不。詳。

正房

次郎左衛門 茂吉 早之助

茂吉 推枝

加杖百石合立百石 ○ 無事行

○ 茂任 ○ 正徳二年八月十七日死八十八歳

同寺

正時

左衛門 平四郎

正深二年純儒より公に

正孝

侍左衛門 孫次郎 孫吉

年月不知正時より

正長

茂吉

家持 ○ 大友組及 ○ 宝永七年五月

女八日記同寺

正綱

佐渡守 大倍亮 九八郎

女子

室永七年五月廿二日初見。同年七月十九日家持初廿二日首名。下大島。享保二年二月廿七日。女。此女。今首。あふ。同年六月廿七日。二。女。首名。其後。初。同年六月廿七日。出。納。戸。同。

田安納。及。仲母。之。印。徳。院。下。号。

年十二月十八日布衣。同九年十月十五日。加。秋。立。首。名。合。子。名。之。同。十三年四月。日光。法。依。同。十四年十二月十日。叙。寿。○。享。二。年。西。九。勤。○。室。曆。元。年。二。月。十。二。日。死。五。十。二。歳。牙。也。古。國。寺。安。

正章

越前守 伯耆守 九郎 二郎

寛保三年二月十九日初見。安享元年

十二月十日小納戸同年十二月十日布衣
 ○同二年六月朔日小住同拜九月朔日
 小住九勤○同年十二月十日叙壽○宝曆
 元年八月九日求修○同八年十月十九日
 小住組為院格命也是日因法之教院務業
 叙中子勤方見習三勤方○同十年四月
 朔日當信力○同十二年六月十日
 日比谷古教者至橋出塔渡津用○同年
 十月十五日應美令三枚時後三○同八年

七月廿二日此早二氣同寺

正乳

数馬

角孫

宝曆七年七月廿二日新親右衛門守兼
 守百平儀其後又平儀加秩安永八年
 二月廿七日出奔赤松

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

東照宮御代



竹村

言の旨を格儀

橋姓

家茂菊水

屋敷明太をより重信の天守菊水を以て
桶正成り物足より菊水と改む

楠河内村友成後流河内山言安部

大竹村任人楠原左席嘉元後年

大和國高市郡竹向許竹内村

居候一竹村浄河原と改むと云ふ

高橋善春長男

母坂守 九多坊 流所

道清

父善春初在廣濃取細井城之細井
右近守又中法有之信成之龍也若
尾上野分なるまゝと考る我々之海之
本年七月五日東寺にせしる道清亦
に身九席た焉初程とて印證入焉

松岡信忠のひらきを信成のひらき
乃と名望の後を信成とて兄弟湯
年に人質とて去らざるを本年
年九月信成を和州とて身九席た焉
人質とて信成とのひらきを同年
六月の信成を信成とて
東進文行内訌とて紙之ひらき流所の附
明智の堂より杖を席に取對せし
大和國土園并信成の外流に在焉

竹村の... 味方... 徳切... 合... 長年中...

見の江戸... 舟... 寛永十二年... 助原寺...

可... 長...

馬と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬
と虎と有るは公卿を誦言す馬

八五九 初 派九席

嘉徳

嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日
嘉徳二年三月廿七日

心儀

久慈坊 初徳一 派之師 勤貞

宝曆二年九月廿日家書〇以七年
正月廿日家書〇以七年十二月廿日
家書〇以七年十二月廿日家書
〇以七年十二月廿日家書〇以七年
十二月廿日家書〇以七年十二月
廿日家書〇以七年十二月廿日家書

心儀

派之師 初乙 派之師

久慈坊 派之師 勤貞

天保四年十月廿七日家書子〇月八
年四月廿日家書〇以七年十二月廿日
家書〇以七年十二月廿日家書
〇以七年十二月廿日家書〇以七年
十二月廿日家書〇以七年十二月
廿日家書〇以七年十二月廿日家書

正教

幼少 和斧台

寛政十一年正月廿七日

御代

東照宮御代



竹村

三目首儀

源姓

家茂 菊水
大ら 桐

竹村 興吉 之 傳 吉 春 次 男

九席 右 馬 江 孫 吉

和利

父お死の後外祖父宮村國幡とて名
くも見えとて代々〜成田家の人質
〜〜〜天保十一年二月の如く謀及

小

東照文相の行の同味哉と云ふ由
の何の御回家の入質と云ふ信
らぬの事長年中見九を信と云ふ
俵人(五三)

東照文相に初人の寛永永仁年七月
佐渡守の國中佐重の如知知と云ふ
の寛永元年十月九日佐列の租税
て多石納りし日八年九月は六百

寛永元年九月は六百

海

信

初年九月は六百
年九月は六百
昔の事と云ふ佐渡守の如知
思ふ事と云ふ佐渡守の如知
佐渡守の如知と云ふ奉行初

名保身... 寛永十八年十月... 死... 行守... 葬

世系

寛永十八年... 明曆... 安永六年八月... 死... 葬

系

世系

系

延宝六年... 寛永... 明曆... 安永... 死... 葬

日守之身

色

九云坊

伴与命

實有條令在焉其意欲

若子。家永六年四月八日初九日。

宣德元年六月廿七日

同九年十月九日。書院後。尚。實係

之。年六月廿九日。死。年二。系。日。守

之。身

初長

惣在書 日 德年

實有初二書

宣德元年。家永。六年。四月。八日。初九日。

初九日。實係。之。年。九月。廿九日。初九日。

日二年。十月。九日。初九日。日二年。

光。日。年。七月。廿九日。書院。後。尚。

宣。德。二。年。六月。廿九日。死。年。二。系。日。守

曆六年十月六日品出性祖の御和
年二月廿百高免の以六年二月
十月廿日法の以七年十月廿日死
又程八業同年のも事

系邦

徳文席 初少年を 兼たあ

同和六年十月廿日品出性祖の御和
年二月廿百高免の以六年二月
十月廿日法の以七年十月廿日死

十月十日あな海

女取五年十月廿日品出性祖の御和
年二月廿百高免の以六年二月
十月廿日法の以七年十月廿日死
又程八業同年のも事
ち二之度

奉定

楠公席

寛政三年十月廿五日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院殿御代

竹村

橋姓

高田百依

家紋 丸内一浪香
菊水

竹村九席右馬前和利次郎

奉英

九席右馬

正保元年秋右馬前九席右馬前
五郎左衛門尉之年加秩百五拾俵

中勅定組次。寛文六年。中勅定
此條の寛文九年七月廿日死
指九条中世大臣守以事

九席大室 中勅定

和歌

寛文三年二月廿九日。自
礼の仕。同日。二年十二月廿日。或
儀。其。日。九年十二月廿日。家
儀。

○口。年。年。中勅定。人。天
和二年七月十日。中勅定。組次。同
年十二月廿日。自。和歌。百。儀。之。儀
之。年。六月。廿日。出。善。清。事。以。の
日。二年。十二月。廿日。新。規。之。儀。の。儀
清。事。の。の。の。世。儀。之。の。儀。九。年
八月。廿九日。神。田。之。儀。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀
年。八月。廿二日。初。之。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀
八月。廿二日。初。之。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀。の。儀

赤松

流石

孫吉

元禄四年十二月二十日大宰府の家
七年十一月十八日漢東河内院
享保十二年十月十日百病先
二年三月廿日死日守葬

赤通

九席大馬

初内通

元禄十二年二月廿六日初八日家
六年四月廿六日大宰府
六月廿一日家後
八月廿二日家後

赤雄

九席大馬

初内通

寛保二年八月廿一日
十月十七日
十一月十六日
十二月十六日
十一月十六日
十二月十六日
十一月十六日
十二月十六日

九席右馬 印 内苑知

齋

明和四年七月廿一日

年二月十二日
三月十二日
四月十二日
五月十二日
六月十二日
七月十二日
八月十二日
九月十二日
十月十二日
十一月十二日
十二月十二日

表

長九席

寛政四年三月二十一日

常憲法成法代



竹村

子百倭

梅姓

家紋之葉根香
九三引

竹村九郎左衛門嘉敷二重

柱左馬

源左衛門

源左衛門

表

元禄三年八月廿一日
俵清貞見正勘定
同日廿三年八月

其六日中勘定組次。○日年十二月廿五日
 加秩百俵。○日十六年十月十九日。○日善
 清方。○日年十二月廿五日。○日新務五程俵
○宝正二年二月廿九日
 常憲。○日新四郎。○日佛殿。○日送。○日
 四善。○日善。○日年十二月廿五日
 加秩百俵。○日年十二月廿五日。○日善
 湯。○日善。○日年十二月廿五日
 文昭。○日新。○日佛殿。○日送。○日

仍。○日三年十月廿五日。○日加秩百俵
 日善。○日佛殿。○日善。○日送。○日
 重保。○日年十二月廿五日。○日善。○日
 ○宝曆十年十二月廿九日。○日善
 斗。○日大信守年
 ○元禄七年十二月廿八日。○日地。○日善。○日
 清城。○日善。○日佛殿。○日送。○日
 後浪。○日善。○日佛殿。○日送。○日

二年十月五日増上寺方丈也及
極旨位解所善清也其全之
校の月五年十月五日行体是掛り
最善徳堂全方校の月減と
物の日五年十月五日蔵言徳堂時版
二程程及の正徳元年十月五日中
増進多ふ来時版二全武校也
○日三年十月五日増上寺佛殿

如日時版の○日三年十月五日
言の徳堂時版二程之程校○日
年十月五日在殿の正徳元年
徳全武校時版の也○日三年十
二月五日時版二程之程校○日
年十月五日時版二程之程校
○寛保元年十月五日徳全
及時版二程之程校○日三年
月五日新正殿の徳堂

紗綾二重色の日年六月廿七日
竹根若菜魚飯正普清如足時推三
羽織若菜の日年八月十二日回書用
屋海普清信多令或叔の日年
十月其日信令三信友時推或解
裁

授在馬 初令支那

赤品

二更定清信公解

寛文三年六月廿五日信令子〇宗
曆十年八月廿五日信令子〇宗
十月廿五日信令子〇宗
月十六日小普清世信叔

道

後命 初年道

二年十月五日

天保四年十月七日

天保七年十月十日

天保十年十月十日

天保十三年十月十日

嚴有流敏源代

竹村

橋姓

竹村共志坊有次曾

志

太師志

天保二年十月十日

天保五年十月十日

勤定但以秋百俵。家永之年
二月病歿。享保六年二月廿八日死
七十一歲。訃也。行年。壽。

家重

友三郎

實日姓九郎。名。家重。男。

家永二年。二月。廿八日。家永。勤定。
心。德。二。年。七。月。廿。八。日。家。重。享。保。六。
年。二。月。廿。八。日。家。重。享。保。六。年。十。月。
九。日。新。田。重。吉。之。文。二。年。八。月。十。日。
月。光。定。法。師。廣。通。由。此。心。實。保。一。年。
九。月。廿。八。日。死。享。保。六。年。二。月。廿。八。日。死。

和教

忠次郎

高

美由味者曰那景成坊曾

享保十一年二月十九日卒于在子。同日卒
六年正月廿六日大葬。寛保元年
十二月廿九日葬。宝曆十一年十月廿
九日山内。其子。天保元年十月
五日。老免。後令。改。同年八月。卒
死。年七十七。歲。以。守。年。

高久

長子

寶曆四年七月。初。入。同日。和。六
年。付。日。自。死。年。九。歲。以。守。年。

高治

高治

其佐。仲。女。房。子。高。治。曾。

天和六年十二月。九日。在。在。子。高。永
六年十二月十九日。大。葬。年。天。保。元。年。

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

様田



竹村

梅姓

三武百俵

取及兼手
三三桐

竹村長三郎有之旨

伊右衛門

嘉通

貞享三年十一月十日様田
百石以上者其年三月十日
見了以三年正月十日百石

○寛永元年十二月十八日初夜也右筆
○同七年十二月十九日初夜也右筆
保十八年十二月十日死弱也取行守
以年

無名

青

実

享保元年十二月十日初夜也右筆
○同七年十二月十日初夜也右筆

同九月廿八日初夜也右筆
○同七年十二月十日初夜也右筆
九月初夜也右筆
○同七年十二月十日初夜也右筆

伊右

赤

宝曆七年十二月十日初夜也右筆
○同七年十二月十日初夜也右筆

子孫

赤實

湯石所 印 伊古乃

四利元年十二月廿九日
年十月廿五日酉時
九月晦日病歿

東照宮御代

竹川

源姓

高三喜 内草履露米

家紋 刻菱 五三桐
左藤也

執羅三郎義光後胤甲斐國住人竹川
但馬守某長男

信經

監物

天正十年十二月五日

東照宮_口被召出江戸_口御供御城所番

勤居儀處 御直上意以甲府所

奉行○死葬法草善徳寺

經秀

笠物

元和四年忠長郡附甲府所奉行○寛

永九年十二月十日

大猷院殿_江被召歸甲府所奉行○寛文

二年清揚院殿附甲府所奉行○延

寶六年正月十日死葬善徳寺

信成

笠物

寛文五年十月十七日於櫻田御書院番

延寶六年正月十五日家督甲府尉奉
行○室永元年

文昭院殿西九戸被 入御供當下

同年四月西九燒火之御番被 作舟

後處病氣身 同年九月朔日死葬

同寺

秀成

丹記

年月不知於櫻田御殿御小性組○

寶永元年十二月十二日家督○同

六年十月廿九日大御番○享保十

六年二月十二日御天守番頭○寛

保二年三月十三日死葬同寺

秀實

内記

佐次郎

實者野田元光衛門守成男

元享五年九月十日養子○寛保二
年六月二日家督小普請○寶曆五
年八月十八日大御番○同六年十二月廿
六日病之○明和六年七月廿三日大所
番○寛政二年六月廿六日大坂在番

中死五十九歳葬大坂法雲寺

秀通

武助

富兵衛

實者河越主税利通三男

天明元年五月廿三日養子○同二
年二月十五日初見○同年九月四日家
督○寛政六年六月廿六日大所番○

同年三月廿日中里兼馬

東照宮殿

竹川

高五百石

源姓

家紋 刻菱 横中 刻菱
華菱

新羅三郎義光末流

善兵衛

朋友

東照宮上奉仕勤品其外諸事不審

忠明

所右衛門

東照宮高麗御陣之砌筑紫名古屋建

奉。關原御陣大坂兩御陣供奉。

幕後殿所代山種借奉行。寬永八年

八月十五日死葬入谷正洞院

明義

所右衛門

忠明所勘定不著之年八年與三三在吉野寺

寬永十七年十二月家督貳百俵。

正德四年十二月廿五日小十人。寬

文三年十月廿六日拂方即納戶。同十

年八月死葬同寺

明親

善兵衛

兵十郎

寛文七年十二月十四日初見。同十年十二月十日家督小普請。延寶四年四月廿六日元方御納戸。元禄元年十月廿日組頭。同十年十二月廿日加秩百俵。同七年二月十九日小普請奉行。同十年十二月十八日布衣。同廿日加秩二百俵。

元禄九年四月十日小普請入。同十一年九月五日俵地方成。寶永五年九月七日死。

明令

善兵衛

日記
十兵衛

頼母

寶永三年八月十日家督養子。同五年十二月十八日家督小普請。同六年

寶永三年八月十日家督養子

年四月七日初見享保○同九年十月九日御小姓組○同十二年四月日光御社系御供○宝曆三年二月廿七日老乞座賞○同八年三月十三日北葬正洞院

明清

所右衛門

富次郎

元文四年六月廿九日西丸御書院○宝曆六年六月三日家督○同十二年十月廿九日同十二年十月廿九日同葬同寺

明英

善兵衛

辨之助

寶曆元年六月廿九日西丸御書院○宝曆元年六月廿九日西丸御書院○同十二年十月廿九日同葬同寺

督小普請。明和三年五月七日。安
御小性組。安永八年四月十六日。本城
勤。同年十月八日。病之。致仕。同和四年

明忠

兵十郎

主膳

實者秋原美永正雅忠四男

明和八年三月十八日。拜養子。明和九

四月五日。家督小普請。同年八月廿二
日。初見。天明二年五月十四日。御性
組。同六年三月廿四日。所弓場始之時
弓太郎相勤。同年九月廿四日。叙綱
柔術上吃。同七年三月五日。小金川
供猪射留。同八年五月十二日。御小
納戸。同年十二月十九日。布衣。同九
年十一月十八日。所供弓鳥射留時。版

三

明和元年十月廿五日 上院村 上院
廿二日 廿五日 〇 安永六年 五月
十三日 新庄 院村 上院 〇 同日 廿五日
廿五日 院村 上院 〇 同日 廿五日
廿五日 院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日

安永三年 五月 廿五日 院村 上院
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日
院村 上院 〇 同日 廿五日

○二五明三年四月望向一物上院
丁卯二十三日。宣政三年十月
廿三日。以上皆掛上院。○安永九年
丁卯二十三日。以上皆院。○安永九年
二月廿三日。○宣政三年三月
廿三日。以上皆院。○宣政三年
四月廿三日。以上皆院。○宣政三年
五月廿三日。以上皆院。○宣政三年
六月廿三日。以上皆院。○宣政三年
七月廿三日。以上皆院。○宣政三年
八月廿三日。以上皆院。○宣政三年
九月廿三日。以上皆院。○宣政三年
十月廿三日。以上皆院。○宣政三年
十一月廿三日。以上皆院。○宣政三年
十二月廿三日。以上皆院。○宣政三年

明直

善兵衛

善子郎

寛政三年十一月十五日御書院番○
同年十二月十日九勤。○寛政五年十
一月十五日一統騎射十日。○寛政五年十
一月十五日。○同九年正月十日御弓場
始火の時版二。○同年十一月十日御供

鳥射當時版三

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

表有院殿御代

竹井

藤原時

象故

九角九枚巻
竹井

先祖不詳蒲生飛騨守長行
并孫玄清定賢長男

只右巻

定廣

寛文元年由院(長安寺)の同十二年
十二月同祖子以○同十三年由長安

高百五拾歳なり。享保二年九月死
七拾二歳沙室の松澤より入矣

五郎助

定該

享保二年十二月廿日亥時。同三年
十二月廿日午時。西。免保元
年十月四日病免。同三年四月廿
死。七拾二歳。同。

定之

孫右衛門

由佐勤仕

定古

彦左衛門

由佐勤仕

某

志次郎

右内少

平左衛門

定契

右内少

右内少

平左衛門

九十郎

定房

寛保三年六月二日
定房。延享元

年六月廿五日
定房。延享元

年十二月十二日
定房。延享元

年四月廿七日
定房。延享元

定房。延享元

定隨

右内少

百七

宝曆七年十月八日
定隨。同十二年

十二月二十日
定隨。同十二年

月高日取筆方。天明六年八月
在子國東川之末書法康用江戶
同七年五月二日在書法檢五枚。同
八年八月十八日取勘定

勝久
...

友有院敷御代

竹傳

友原姓

子百保子

藤致
石條之角根
信菱三首

信津宮大和子信房末葉山麻
肥前子信云坊子信傳次郎左衛門
勝明九代少母國信人信傳少左郎
信明子

友原姓

勝久

治二年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
治元年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
治元年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
治元年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
治元年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未

武三傳

勝定

元禄九年 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
同年十月十四日 死 同日

勝幸

實勝久次郎

元禄十年 十一月 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
云云 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未
未定 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未
享保二年 三月 未定 乙未 乙未 乙未 乙未
乙未 乙未 乙未 乙未 乙未 乙未

勝元

小左衛門

享保二年六月安永○同三年六月
表大々々安永○同十年安永○平後
西邊与安永○寛延元年九月有
死下台全秋心安永

勝之

小左衛門

寛延元年十月安永○
与力○宝曆元年七月十日死安永

勝周

小左衛門

矣勝元次子
宝曆四年十月安永○
与力○安永四年二月安永○
取書物安永○同五年正月安永

深養紙五枚。同八年八月伴定不
書物取用。同年十二月廿五日
定吟味方致紙五。天明元年二月
強倉納紙八幅社未修傳立合。同
年十月廿日右養紙拾五枚。同二
年八月廿日右養紙拾五枚。同三
年十二月廿日西丸未修傳立合養
紙七枚。同四年三月廿日同六年十月同
東川。未書傳取用。同十二月未取。

同七年五月右養紙拾枚。同八
年八月十日支紙拾定吟味紙五
寛政元年正月廿日法紙以。未書
請取用。同十二月未取。同二年六月
十四日右養紙拾枚。同二年六月
川紙方立合。同四年五月朔日
和卷所未取。未取用。同月未取。未取
錦紙。同年五月廿日未取。未取
同年八月廿日右養紙七枚。同六

年十二月二日取錄拭書形
張拾枚。同月廿三日。裕官系於未定
同七年七月六日。未取。同年十二月
十七日。右邊張。同十年八月廿三日
拾四葉。死日也。

三四郎

勝政

寛政四年二月十日。初見。同十年

十月。百五

文昭院殿代

竹垣

藤原姓

高百幸依

家紋 三頭巴 竹雀

先祖不審

旧記等焼失之趣

竹垣齋

門某三男

庄右齋門

喜長

元禄十六年五月十日於櫻田御殿新規添

日月七多

御勘定平儀三人扶持。○室永元年五月
御本九勤百平儀成。○享保三年青
七日死葬之青野末清岸寺院

治部省齋門

百助

喜道

實者實者院御留守居中根壹岐守家美
秋并久馬右衛門某之曾

寶永元年五月養子。○同年四月高
勘定。○享保三年五月十八日父死同為
○寬保三年六月廿五日作美濃國御代官
○貞別泉願居所附鄉村引渡御用。○延
享四年二月九日御暇。○同年四月朔日
歸謁。○室曆六年十二月廿日於越後國
蒲原郡水原傳屋死去年七歲葬同所
長樂寺

直照

庄藏

庄次郎

實者寄合根守郎家未終并之為石
齋門某二男

元文三年賀養子。寬保元年七月元
日御勘定。延享三年美作國勝城
三浦守領地引渡所用相勘守厚

十一月壞銀十枚。同一年十二月宅品
行刻出精相勘守壞銀十枚。寶曆三
年遠三播丹波後石見國城所造
朱見分御用。同一年十二月八日御暇。同
一年十二月廿日父宅同島。同七年十
月廿五日御代官。同一年七月十九日越
前國五萬石。同十年五月十日於同國
增地一萬石。明和元年朝鮮人未

朝有河内國牧方宿所贈所用相勳有
時服二。同二年六月廿五日於伊豫國當
令所預。同七年八月五日於越後信濃
當令所預。同月十日有御預所共所代
官一万余增地於信濃當令御預。同
九月廿五日於越後所預。同年越後
國一各御料所材。御普請之儀。同年
御用相萬石存寄。上儀處御用

萬相極同年。用粟米桶類水門堤川
除亦御用。五年日。至御普請之儀
存寄通相真。所角米金格別相減
儀存。○安永元年。褒金三枚。○天明
年三月。越後國場所替七万萬成。同
六年六月十日。老之褒金三枚。同
年六月廿日。致仕。○同年十一月五日。老
七十五歲葬同寺

直温

三右衛門

登

實者丹羽五左衛門長利曾

明和四年十二月廿日養子。同五年四

月九日初見。安永三年五月六日

十八日。天明六年七月十二日家督

。同年九月二日御代官越後國五万

石高。寛政元年五月八日松津河内

堤奉行并廻船方如役御用。同年九

月廿九日先阪御藏御取締方御用。

同三年四月廿日羽倉權九郎相越廻船

改方之儀。御代共。付方不行。御用

差扣。同五年六月十一日高免。同五

年七月十日關東郡代支配増地一

万石。同六年六月五日小金御

帝狩御用相勤假身。○同七年四月十日
獲銀十枚。○同九年二月十五日公家衆
年內所賄御用。○同年五月廿日獲
銀五枚。○同年又配所常陸下野國
荒地起込入百姓見養育未之供存身
取相同少處否取斗方伺之通。同年
十年之間取扱被作付當村取斗居

直清

注藏

實政五年六月十八日初見。○同年
十月廿日御勘定

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

廣志系中代

竹尾 高千代七孫公七年解

友原姓女姓 長政 厚自乃有每
六下子車

阿保親王中代流胤續列花津

竹尾住源春原七代孫廣國

惣領

戸一席

親守

竹尾

一列親田部の中邑に堤小城築
く居りて存僕百餘人を以て食
其威風と云々一略之り云々

唐忠義一殊家僕は幕より一辰一也
感懐大なる事と云々其は戦場と
云々其は其の中。天文十七年松平
征人伝存報送一有津伐のため
先向りて世河戦死

二関下と云々愛懐あり云々

親長

二唐右進

東照宮一奉仕と云々

女信

平右進の尉

宗久

東照宮一奉仕。永禄六年一向宗

一校の衣通が馬ありて大坂城にて
戦死

親吉

六方
吉助

東照宮へ召寄りて力をあせりし
に逢ひし時龍遇りしを以て
○之を三年味方原に陣取り
大坂城と田原慶とありし戦切あり

○天正元年正月野田に馬の
衣通ありしとひき切られし由に
月

信康君は助成を以て進取候を以て
長條陣出立の衣通實入りし
田原慶と居城とあり

○一校の衣通が馬ありて大坂城にて
戦死
○天正元年正月野田に馬の
衣通ありしとひき切られし由に
月

南風烈烈瓦一可く天燼くあり。
以て年依曰右馬の位位番二保城
楯也

么と道と責人馬財心汗跡所よりと質
ありし法士官糧の働汗威收は
くくは若後光の味責のせり
若向らと城中へ以て大おお祭
又を郎のそ級とねと質と備ふ。
天正九年二月遠く西國の么と

ありくちま天祥の成と困じと
成と三四路汁切抜く落ひと
金由備りの的場曲備ましく押
う歌お千人よりく村影と大器
小取廻られ首一とね表種候
おひひとと上質あり候と物
ものよきとと世夜中を指法絶
とありくお追くとも夜夜集
くく履天女節子初めお祭

大貴人とゆふ。日本二年二月甲辰也
日向佐守。日本二年四月庚辰
長久。日本二年陳佐奉。死。刻。在
川村。妙。藏。寺。之。墓。

系

二郎大進

今川義之。之。后。永。祿。二。年
桶。狭。之。合。戦。の。末。討。死。

系

平右衛門

末照。官。一。年。在。後。乃。所。奉。の。其。後
林。平。武。親。大。捕。一。次。之。後。慶。長
十。二。年。八。月。庚。子。死。年。七。七。歳。

俊久

四郎左衛門

右。衛。門。俊。久。一。十。一。歳。在。其。在。後。乃。

昭春。

崇光院後附言。百七十八年七月
降。河原。平。在。初。八。

天樹院後附加。秋。百。石。合。子。六。

百七十八年七月。余。子。來。百。石。水。

十六。〇。七月。八。日。死。百。七。年。小。

石。川。傳。通。院。小。院。

已。所。云。清。

後方

古德院後。十二。年。初。八。

大猷院後。代。中。性。組。〇。實。文。之。子。

同。介。已。所。云。九。歲。行。子。之。辭。

已。所。云。清。

後方

實。約。并。吹。師。丸。集。昌。信。次。男。

家。督。〇。

後。有。後。院。傳。代。中。性。組。〇。百。七。

年大坂御代。同八年六月廿一日
死。享年七十。歳。日。年。子。孫。

俊常

戸一席

實版田之右衛門主成次男

延享元年六月養子。同九年

二月家傳小室。同七年正月

十八日初之。享保六年六月廿一日

新任。之文二年十一月廿一日死。年

六。葬。同。寺。小。塚。

戸一席

可存

俊将

享保六年六月廿一日家傳。同

年六月廿一日初之。同八年六月廿一日

家傳。同九年六月廿一日家傳。同

十年六月廿一日家傳。同十一年六月廿一日

家傳。同十二年六月廿一日家傳。同十三年六月廿一日

家傳。同十四年六月廿一日家傳。同十五年六月廿一日

家傳。同十六年六月廿一日家傳。同十七年六月廿一日

社系佐左。○日本八年四月病卒。
延享元年十月没任。○同三年
正月死。享年七十九。葬山崎。

助三郎 戸一郎

後賢スウ

實治元年九月。齋正之男。
元文六年六月廿二日。養子。○延享
元年十一月廿一日。家督。○同二年

初妹 九月十二日

今所請。中性。○寛文延保。○七月十二日
一曰小書信。○宝曆元年十二月廿
二日。小性。○日本之。○正月廿
日。番石。○延保。○小書。○又。○延保
日本。○正月。○延保。○延保。○延保
年。○六月。○廿二日。○死。○享年。○八十九。○葬。○山崎。

延保助 内膳 又次郎

後一ス

夫 戸田右衛門助勝使次男

元和元年正月卒年五十一。以六

年九月六日卒。以七年四月廿日

初見。以八年十一月廿七日。以書

。西永三年十一月八日病歿。以

年八月九日死。年七十。以歲日。以

傳教

右助 月 祐 依 師 清 助

實 子 永 長 次 郎 正 長 次 男

西永三年七月廿九日卒。年五十一。

以年十一月八日家傳。以〇年三

月廿初見。以六年七月廿三日死。

宗性組。以八年四月十六日。以

勅。以〇年八月十八日。以

永馬上。天保元年六月廿六日

初見。以〇年十月廿日。以

以年七月廿初。以〇年七月二

月日少令沙麻行旅諸馬○月八
年十二月十日

大納言御附

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

東照宮
休院
与公御後

友系姓
在重車
深車車

先祖不詳

傳九市

之子衣三

東照宮(奉仕)○文祿三年七月二日
死相模國墓山小葬

清心

侍九席

右徳院殿一書は。寛永二年十一月十日
新御武田様は石の御用事と仰ふ
○お株三百石合は百指はるゝ成大
正書。○同九年二月五日
右徳院殿御遺言を御用事と仰ふ。○正係
同十一月六日二書を奉りて死

日命一葬

孝^{ツカ}

佐九郎

○死
御遺言より百指はるゝ成大
正書

之道

佐九郎

大猷院殿(新親直) 三言後 道平入。孝安
四年十一月十日父清山歿。通江後
日石之内歿。武田石以收公武平
日石之入及入均以山切来出後
山内歿。山内。山内。山内。二
年八月廿日死。而了。發

元清

市原石馬

實文二年十一月九日半入組。山内
二年十一月十日家歿。元祿三年
二月廿五日山内組。同年六月
九日死。而了。發

元真

傳九市

元祿三年八月廿日家歿。山内
二月廿日大沙番。同六年十月廿日

新中番加秩平依合貳百平石与
之。○甲巳年二月九日物作書。
室永久年同正月五日中細戸。
○乙巳○正月十日葬所行有一日書
○正徳二年七月二十日死以而了葬

曼^{ナカ}子^{ツ子}え

仲三郎

正徳二年九月七日在洛。○享保

九年十月十日新中番。○同十七年
七月十日病死。○享保二年二月
日身行仕。○西和二年十月廿日
死七十歳以所了葬

長九郎

如堂

元貞

實田友生花次西に男
元貞巳年二月十日喜子。○享保

三年四月廿日家信。同年十月十
六日田安少左浦新番。同三年元
晦日衣之丸。同年六月十九日丸
子納戸。同三年九月廿日自津本
尾一山依之方山納戸。同三年二月
廿日拂身山納戸。宝曆六年二月
十日拂方山納戸。同三年丙
子二月代替將軍宣下山用表
詔書。同三年二月廿日山用表

若君山誕生山用根指。同三年
十二月廿一日田鶴美地後山用山指
。同三年二月廿一日光山指志
山用山用山指令給。同三年
三月廿日山指。同三年五月廿日山指
。同三年六月廿日山指。同三年
七月廿日山指。同三年八月廿日
山指。同三年九月廿日山指。同三年
十月廿日山指。同三年十一月廿日
山指。同三年十二月廿日山指。同三年

安永六年四月日光寺村系信等
○同年七月廿八日西條物事行
○天明六年十一月廿八日湯原友河
用人○同九年正月廿八日
姫君御用○寛政之○二月廿日
河卷御用人○同年七月九日免之
右左○同三年十二月十日新任之
教取來武百依德振料下付之
○同年四月十日利安如之

改名○同六年六月廿五日死七十九歳
日初之葬

之友

之友

夫 彦田之所居也 忠類次男
安永元年十一月廿九日卒 享年六十。
同二年十一月廿八日初九。同六年
三月廿九日初九卒 享年六十。

二百倍〇寛政二年十一月十日
〇日七年三月五日
諸子

一 寛政二年正月九日
〇日
〇日

一 〇九月廿七日
上

大猷院

竹尾

源姓

家紋
丸七相

里月利源大輔義美
義治二男
尾文
江沼人
辰辰

忠 德

長之清

寛永十八年二月五日由緒家左衛門
或人扶持。寛文十年十二月十六日
老免河内。貞享元年正月廿五日
死享年之衆麻布志性有餘

金 忠

清九郎

寛文十年十二月十日家格由緒家

寛文十年十二月十日家格由緒家
列後由緒方(百前)行(工)方
次男長之清(名)之(在)後(口)と
幼(口)の(享)保(十七)の(七)月(廿)日(死)
今九氣池(口)大坊(口)發

忠 吳

清九郎

免九郎

元禄七年十月九日列後由緒方

名(口) (口) (口) (口)
和(口) (口) (口) (口)
十(口) (口) (口) (口)

○享保元年十月廿八日西嶺山
○以十三日西嶺山先河社系在
奉○以十六年西嶺

河原中山道所用○元文二年六月

十日石巻河原教所山嶺改山屋

西嶺山嶺及○以六年十月廿六日

西嶺山嶺一役○以年十月十六日先

小雷法○享保二年十月廿六日在

○宝曆元年九月廿八日死八十一歳

麻布真性寺小齋

忠高

元文二年 壬午

享保二年十月廿六日家信○宛地

二年十月廿六日劫定○宝曆十

年二月廿日

信院教所藝送山嶺山用以○

八月十日信院及役○天保七年

七月十六日先小雷法信院及役

以年八月廿二日死七十二歲
年山葬

五十市

忠厚

安永六年十二月十九日部左衛門
忠勤元原末百後。以六年
十二月廿九日卒

富之助

忠庸

實人山崎長右衛門信次二男
安永七年同七月廿九日養子
。天明六年六月十日初元任
。以七年六月廿七日
家督。宣文七年十二月廿九日
九月廿九日卒。以八年十二月
月十日在北海道筋定式以
及不任用。以年十二月富岡府

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

高八百石

右京姓

竹田

右京 十五番表苗
百七十九石
上ノ後ノ丸

武智麻呂二十代心成國之伴於竹田
郷之役人竹田心成權之收養子代依本
兼須位之電之平於坐其位歎止は
竹田年人必要及婦子竹田助右是為政房次

男

政清

竹田心成

正保元年十一月廿七日自見人の廣女
二年十二月廿六日半人廻り以て寛永
三年七月廿七日推人技巧の義徳元在年十二
月廿七日自見人の廣女合年十二月廿
日正保元年十二月廿七日自見人の廣女
百後技巧合年十二月廿七日自見人の廣女
四月廿七日自見人の廣女合年十二月廿七日
三月廿七日自見人の廣女合年十二月廿七日

正保元年十二月廿七日自見人の廣女

改

竹田丹波守

左京大夫丹波守

有子

有子

天和元年十二月廿七日自見人の廣女
正保元年十二月廿七日自見人の廣女
正保元年十二月廿七日自見人の廣女
正保元年十二月廿七日自見人の廣女
正保元年十二月廿七日自見人の廣女

勝心之記乃中書省之記也
 九月十五日庚戌の日に在る年七月十八日
 書信方の室永百有年八月廿一日書信
 方の同年十二月廿九日布衣の日に書信
 加藤武吉侯より書来り切来り書信侯地
 方より書信の日に在る年十二月廿九日相澤
 書信方より書信の日に在る年十二月廿九日
 十二月廿九日九月廿九日書信侯用方の四日見
 上より書信の日に在る年十二月廿九日

其月廿九日
 常書信侯の書信の日に在る年八月廿九日
 於此先若年八月廿九日書信侯の日に在る
 名は書信侯の書信の日に在る年八月廿九日
 二月廿九日書信侯の書信の日に在る年八月廿九日
 十月廿九日書信侯の書信の日に在る年八月廿九日
 年二月廿九日書信侯の書信の日に在る年八月廿九日

改頁

竹園者古為

氏如

享保十九年十月廿九日
年四月廿五日
此後
年七月
十月廿九日

十月廿九日
此後
年七月
十月廿九日

改方

竹園者古為

氏如

享保十九年十月廿九日
年四月廿五日
此後
年七月
十月廿九日

三才名号心印寺古塔塔身

竹田有左衛門

四席次

改書

姓勝雅 高八百石

天明四年十二月廿一日
天明五年十二月廿一日
天明六年十二月廿一日
天明七年十二月廿一日
天明八年十二月廿一日
天明九年十二月廿一日
天明十年十二月廿一日
天明十一年十二月廿一日
天明十二年十二月廿一日
天明十三年十二月廿一日
天明十四年十二月廿一日
天明十五年十二月廿一日
天明十六年十二月廿一日
天明十七年十二月廿一日
天明十八年十二月廿一日
天明十九年十二月廿一日
天明二十年十二月廿一日
天明二十一年十二月廿一日
天明二十二年十二月廿一日
天明二十三年十二月廿一日
天明二十四年十二月廿一日
天明二十五年十二月廿一日
天明二十六年十二月廿一日
天明二十七年十二月廿一日
天明二十八年十二月廿一日
天明二十九年十二月廿一日
天明三十年十二月廿一日
天明三十一年十二月廿一日
天明三十二年十二月廿一日
天明三十三年十二月廿一日
天明三十四年十二月廿一日
天明三十五年十二月廿一日
天明三十六年十二月廿一日
天明三十七年十二月廿一日
天明三十八年十二月廿一日
天明三十九年十二月廿一日
天明四十年十二月廿一日
天明四十一年十二月廿一日
天明四十二年十二月廿一日
天明四十三年十二月廿一日
天明四十四年十二月廿一日
天明四十五年十二月廿一日
天明四十六年十二月廿一日
天明四十七年十二月廿一日
天明四十八年十二月廿一日
天明四十九年十二月廿一日
天明五十年十二月廿一日
天明五十一年十二月廿一日
天明五十二年十二月廿一日
天明五十三年十二月廿一日
天明五十四年十二月廿一日
天明五十五年十二月廿一日
天明五十六年十二月廿一日
天明五十七年十二月廿一日
天明五十八年十二月廿一日
天明五十九年十二月廿一日
天明六十年十二月廿一日
天明六十年十二月廿一日

高二百石

名取 十六系素着

有左衛門
竹田

竹田有左衛門改書

改書

竹田有左衛門

天明四年十月二十日
天明五年四月八日
天明六年七月十八日
天明七年六月十八日

元禄十一年庚申八月廿五日

政就

竹田源三郎

元禄十一年七月廿八日
元禄十一年八月廿五日
元禄十一年九月廿五日
元禄十一年十月廿五日
元禄十一年十一月廿五日
元禄十一年十二月廿五日

文昭院御覽上巻内入相公御書の正位

元禄十一年八月廿五日
元禄十一年九月廿五日
元禄十一年十月廿五日
元禄十一年十一月廿五日
元禄十一年十二月廿五日

政行

竹田源三郎

右巻

元禄十一年八月廿五日
元禄十一年九月廿五日
元禄十一年十月廿五日
元禄十一年十一月廿五日
元禄十一年十二月廿五日

政表

竹田源三郎

今午節

源三郎

宝曆八寅年十二月廿七日
年正月廿五日
年正月廿八日
年正月廿九日

源三郎

政表

竹田源三郎

宝曆十巳年十二月廿七日
年正月廿五日
年正月廿八日
年正月廿九日

直政

竹田源三郎

今午節

宝曆八寅年十二月廿七日
年正月廿五日
年正月廿八日
年正月廿九日

[Faint, illegible handwritten text on the right page]

有東姓

竹田

了八百名

孝俊 十六葉表 菊

子子丸

竹田の能者方政清の曾

政殿

竹田若菜

万治二年八月廿八日瑞月組の日年三月

四切糸百俵の定文元年

法揚院極中府江をわね後後少知語症

法門二百二年七月甲府府用年行の

有以形死後之歲日年并

庚子年六月廿三日

竹田求了

大藏

改法

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

庚子年六月廿三日

竹田求了

改法

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

庚子年六月廿三日

竹田求了

大藏

頭新

庚子年六月廿三日

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

宣和六年二月五日

十三年四月廿二日
三月廿九日

若菜福徳内
歳辰年葬

竹田吉平

新道

高之旨名

宝曆十二年四月八日
宝曆十二年四月八日

九月廿一日
二月廿三日
二月廿五日
二月廿七日
二月廿九日
三月一日
三月三日
三月五日
三月七日
三月九日
三月十一日
三月十三日
三月十五日
三月十七日
三月十九日
三月二十一日
三月二十三日
三月二十五日
三月二十七日
三月二十九日
三月三十一日

新秀

竹田在座

多文元
自年一月及八月四日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

予或為多能侯

者東姓

子亦故

松平重直
右左相
子亦故

竹田

竹田在座

以賢

竹田在座

宣文之當年十月十九日呈出社奉
御新親之旨半人經河切重直係族人
扶持門之知年二月十日呈出社奉
竹田在座

西二百年七月廿五日
老先令公致政の同日
其年八月七日
死後之歳漢東貞
源守身

必興

竹田二節長

後節

天和之三年七月廿五日
其年八月廿七日
死後之歳漢東貞
源守身

天和三年七月廿五日
其年八月廿七日
死後之歳漢東貞
源守身

政本

竹田二節長

後節

源守身

天和三年七月廿五日
其年八月廿七日
死後之歳漢東貞
源守身

天和三年七月廿五日
其年八月廿七日
死後之歳漢東貞
源守身

天和三年七月廿五日
其年八月廿七日
死後之歳漢東貞
源守身

后の女御三年一月廿八日死に後三年
日守身

主身

竹田宮女御

授命

改元

実及身之

寛保元年十一月廿三日天子御宇
二年七月廿九日家督の定曆二年
九月十日大嘗会の月廿九年九月廿七日
日延多日の寛政三年四月九日老免
令改元の以七卯年卯月卯日死に後六

歳日守身

美濃守長左衛門保春法曹

竹田宮女御

授命 保春

改元

主身百少程佳

明和二年十一月廿七日天子御宇
有月卯日寅卯子宮改元三年十一月
乃中書院書の以二箇年九月廿日
御御 上院院改元三年卯月廿日
年二月廿日信玄少令京西麻持長行

帶子の権内江飲の月年八月廿二日
同八年十二月十日卯九知

蘇博

母

母

兼政

兼政

177



有系姓

竹田

之の百子孫流

兼政

拾六葉表葉
西七ノ相
与ノ為也

美濃守政長権六代竹田如左の政房

之曾之左美の政伸也

政乃

竹田如左

徳友也

左政乃曾祖父竹田年人作量政之孫二
年下江在甲寅之位作本最須上仁
百中費似知仕作本最須上仁最須上仁

此致死子即皇弟後房源公廣長
 十三年二月廿日死右後房源公廣
 左馬頭源公賴元右馬頭源公賴
 心持右兵衛少輔源公賴朝之孫年一
 二月廿日病死信右左兵衛少輔源
 公賴朝之孫源公賴元之孫源公賴朝
 十日福田源公賴朝之孫源公賴朝
 日本之皇年八月十九日死右後房源
 公賴朝之孫源公賴元之孫源公賴朝
 三月廿日源公賴朝之孫源公賴朝
 三年八月十九日死右後房源公賴朝

年八月十九日死

五年二月廿日死源公賴朝

理實

平賀源公賴朝
 源公賴朝

源公賴朝年八月十九日死
 源公賴朝年七月十九日死
 源公賴朝年九月十九日死
 源公賴朝年八月十九日死
 源公賴朝年七月十九日死
 源公賴朝年八月十九日死
 源公賴朝年七月十九日死
 源公賴朝年八月十九日死
 源公賴朝年七月十九日死

収容

三行四行とある所
竹田信行

享保十九箇年十二月十二日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二

177

己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二
己年八月二十日自元之元文二

持方の以大中九年九月より之而及切也
青紙の以七卯年二月より之而及切也
本年七月より之而及切也

改正

行田者一

左

の初より年二月より之而及切也
七卯年九月より之而及切也
口紙より年二月より之而及切也
左より之而及切也

姻者海月 古より之而及切也
官者海月 古より之而及切也
口紙より年二月より之而及切也

の初より年二月より之而及切也
口紙より年二月より之而及切也
左より之而及切也

○寛政二百年十一月十日大納言
弓比用○同七年十一月十日大納言
計りしに上

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

名目三十一名

若糸姓
竹田

泉致十六葉菊
五名
可致

宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言

竹田中納言

武部

宗茂

宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言
宗茂公の御子孫に奉る竹田中納言

定安

竹田彦彦

書

元文元年二月廿七日
年四月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日

定安

竹田彦彦

元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日
元文元年二月廿七日

一頁

竹田彦彦

元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日
元文元年九月廿七日

三宅氏の中世の系図

貞廣

竹田冠江師

三宅氏

寛政九年十二月五日

日干午年五月廿九日

三宅氏

友京氏

三季流

竹田

今世は僅小山城の昌茂山城國

竹田小幡長也より竹田とあり

くもゆきとくしんふ繁るゝ寛永

系図昌茂七代の祖と定外田

● 大定

中納言と号せしむる母と大定より
すし其竹田と称せしむる一服ふ
ぬしとていふ志をく今皇孫の
悦を為す

大寺

敦人

氏部

中納言

淡二位

185

竹田清水管成と二條と稱す

坊城内大臣真宗号早ふ孫二宮

母々中務少輔教と云ふ女

● 真持

別

皇孫多美

大納言

正二位

法名親光

母々大納言成親と云ふ女

光茂

中右衛門

正三位

其子依大官同公通之女

真時

冬議

正二位

其早子厥實時又作

其子山陵左大臣某女

宗季

公承

中將

女子

公葉

友中将

正二位

真季

冬藏

後二位

為早合孫實秀子作

去度

冬藏

後三位

真次

季賢

定通

定章

透茶

茶園

明室

初昌茶 香子代丸 山城丸

法印

後光嚴院の御宇にありて初勅にあり
山城奉行田代繁長等々御下り竹田を移入
明室武勇法印の御下り服半に睡ぬる御あり
りて醫術を好むに志す事し深
寛永二年明室に今春道士を御し名を
あらしめて明室と号し及士を能く医て

學以許多能書乃以牛黃家為能能方也又
又乃才の如也妻と二子を生む明の法武年
中を疾疫に臨み殆死し命ありて明室
徳を珍し某一刻を授けて分悦ありとて
皇子降誕に去祖を切を賞し安國云り
此を疾る事十年ありて均朝志を新
色中を學ぶ化醫家能能書乃以個人形部尼
觀るを携へ天授四年永享四年法林中郎の海
内より良医の撰み奉りて康苑院義海に任

法印の叙し、此地乃以官原能能地方一町と稱す
今系原三條法以倉町と稱す、永享四年永享
二月二十日、能能法名室

定書

書考

直考

定後

瑞筠

周家

若録

和若

法眼

法印

寛永十九年

後山松院山後山母山茶山を山叙山以山平山愈山の

賞山より山法山眼山叙山せ山り山以山平山愈山法山印山り

若山里山名山を山若山録山と山あ山ら山ふ山を

今の山皇山親山若山若山切山名山ハ山竹山子山代山丸山兄山明山室

実山子山を山以山より山ノ山を山以山て山叙山し山法山印山と

叙山し山弘山和山二山年山（朝の山）の山夏山

後山山山院山以山瑞山筠山の山と山以山て山兄山明山室山明山玉山より

持山来山り山て山以山て山傳山へ山り山の山追山憶山香山（あまの山）

ふ存考をくくはつるの和紙は即年念あ
ましつちを是と考せしきて即製一頁と
しぬ

あつくと富士のる和紙相を
雲のふまてつて

寛永十七年、弘化法名法園そのる成助
岳といふその年父の遺海を法十九年
後、和紙院御福の母山業を教り、甲午念り
より法眼を叙せり。二十八年法なり、其年

宝徳二年十月弘化法名若山そのるを和
考し、同年遺海を法といふはまより
く考。其寛永系若山考、其考の男和
考、其考を混し、和紙一代を統せしそのる
う、そのも今よりみその考を改る事と
ゆ、そのも其同と考、その考を考み、其

定盛

和紙考 法橋 法眼

法印 号杖翁宗俊

康正二年延寿類要二卷と著つて長祿二
年大聖院の福杖僧の号として法眼り
叙し應仁二年慈照院義政福祿平念の
切を著せられ法印と号する文明十九年義政
の法持を逃して定整とありて文明應仁八年
六月二十日死す法名号安

見透

和足卷

定怡

初宗号

法眼

應仁二年法眼り叙し後父より先くして
死す

定雅

後次郎

如子

某

物秀丸

高定

茶師寺

祖彥

大寺

定祐

初秀

極樂院月海

之定

山城

某

梅賀丸

女子

女子

女子

女子

天保... 七月... 六... 八...

定業

周耆

定種

急務丸

法眼

法印

号法卷 又号獨竹

天文年中光源院義輝より医女人を撰ひて

その次序を定めたる定種ありしと列せしむる

在田成子院淳忠定種中并好庵撰集結
并友宗師なるの十九年四月二十七日死

法名り光

定種

善卷

法印

女子

周光

善卷

周樵

女子

定加

梵松丸

法眼

法印

号雄卷

天文十九年遠跡を施元承二年

心親町院刺夜即年念より十月十日法眼

叙し天文九年三篇法院夜快念の考より

甲して三月二十日法印日昇るのち量良右衛

定加の三條の長宅に條より恩顧とある

海に天文年中大政司の病病を療治し

復あるより左衛門より粟毛段のち足米

三百石とありたれと考ふるの言とありける

あねの所を備へ村長を積聚と患ふ事一年あ

りて其苦痛より一にして後を刺し死する

身其の虫を治すに形状を毒に似てくら

りし毒を如く脊中より口法ありたりたる毒あり

左衛門の如くせみとく奇とく強ひ定加より

うら今移りてあるす文禄二年明の聘使

附用持徐一貫も容念ありして病より重

しうは左衛門の命よりして業を少く強

の書籍とありし事あり附用持内帆の後

も定加の医州を著るる一書は和の徳を
法字易もまゝに種痘の像と自画して端を
うらへ
台徳院殿の娘居の山菜とて書きて一母
東照宮の御書とて書きて
台徳院殿の御書とて書きて又
東照宮の御書とて書きて
孝長六年六月十七日此の年六月廿五日迄
英

高八松平登物殿の女

女子

女子

某

後子代丸

某

狗復丸

女子

定白

英甫

法眼

号宗雄

豊后秀頼之仕(元和元年六月大坂城)
為りて討死す

李^ま李^り

法印

母(次女)

秀頼之仕(孝長末年父の遺命より)

大坂を退去し十月より

東照宮に泊る(法印の叙を)

是より先

台徳院叙より(聖書を納ふ)元和元年四月十日

系師よりして(法眼天山叡地を運院より)

書八木村常陸介文少女

定宣

仙文代九 法橋 法服

法印

母とふおる

孝長九年八月二十日法橋了教付十一年

四月十日法服了結一十二年とくしりて

東照宮おのり四月十二日法印の果る元祖

三年八月二日

台徳院のり 守蔵玉當時お樂由那の由領

為百石を物いひし奉る下をりて是よりとて定

宣定師女在て

禁裏給務用を勤るより隔年且兼府に

主資用として月俸百石を物ふす先祖

明室明國より傳ふる可成牛蒡画を

右徳院おのり六日書を多しひすしり

花より可成都尾硯一枚おもて天孫給る

七郎軍相國方の信標所の在條在條一尾子年
子視同歩大匡竹田と銘しつるを台洗子傳へ
後足心被以奉安元年正月十五日常師も死
七年七十六法名靈岩被地建仁寺の靈洞院
り尋る
妻八通夜月防も忠用り女

今此里種も定加の長男を孝孝とて定白を
二男とて定定とて三男とて孝孝の男子を
う初も定定とて長子とて孝長十三年家

徳くむとて小定承系國定加の長男は定白
をうけ定定とて二男とて孝孝とての世も今
世系八回も後ひあつてありすといふも今の
後小孝孝とて補むとて天同とて奉く

忠孝

承系と

定賢

竹松

法眼

法眼

元和三年七月法眼必叙一八年紀仔大納言
頼宣乃小附屬々々以寛永七年七月百紀
仔必也以紀仔年乃千四法名乃元乃神山
照光院乃葬百

法安只元

某

早世

傳子代

某

在卷

為乃子乃の乃家乃を乃傳乃の乃ら乃傳乃業乃と乃
岡乃子乃を乃傳乃

某

傳子代

早世

定昌

宮内々

母之志用々

寛永十一年三月十日

大猷院為母御獨以十葉後父をたむ

禁裏に能く或は江戸に来りて事仕ひ二

十年九月二十日父を先にすりて死ひ年二十四

法衣月桂葬地定宮をおもすし

某

長松 女林

おありて系師是仁寺の増次靈洞院に及

職をする

女子

定務

表文代九式部式部々

法印 被仕号卷秀院

母之定昌みおるし

そのあかきしと建仁寺に在りて後還俗し

正保元年十月十三日

大猷院殿みおるし十十氣十安元年十月二十

日遺跡と法寛文元年十二月十九日と云

なりと云し十二月二十八日法印と叙し

惟しと云し江戸に在り十二年十月

九日被仕し元禄七年四月朔日死し

二十日法名惠山湯崎の麟祥院に葬る後

代々葬地と云

妻みおるし法印と云

定枝

初定安 定安 岩松丸

法印

母之利家の子

寛文元年八月二十日

巖有院殿より海にえたる。十三年
十月九日あるは院延宝元年十二月二十八日法
中より叙し、貞享元年八月二日高田と
元四年七月二十日奥田と列し、元禄二年四月
二十八日七とあり、四年正月十三日と此に取
取れりして、永代百石を如くし、是年山城
の赤代と此に國多、胡其樂二郡のころより
る、元年十月二十日高田と傳と十年、月二月
十三日始りし、奥田と列し、十月二十九日七と

ある十二年正月十日と傳と、惟永多胡と
のころありし、二百石の地を如くし、十四年八月
十日分族町地酒と、應享元年、羅とあり、事とありし
てお仕を傳らぬ十日ありし、十五年十二月三日
惟永のの内とありし、加恩二百石とありし、宝永
元年、桂昌院の、高田の、地、茶とありし、中、後
ありしと考せらぬ、正月二十日又同郡の内とあり
して二百石を如くし、すして、二百石とあり
とありし

常憲院御所より、林峯の像を書て物
 ころ二月三日菊の四下を物より
 先親孝法御書画及び四網をとも教を
 物より二年荒御より二月三日格を免さ
 家令列し七年六月十二日死し年二十三
 法名法隆
 妻八右衛門之安宗格の女

某

虎之患

某

吉岡

如子

如子

定信

竹田冠次郎貞彦の祖

系ふ代 式部卿 在八郎

病ありて嗣と辨はるといふ後愈より

常憲院殿より之と事別れぬと云ふ

女子

元

初定秀

刑部卿

法印

母之某氏

元禄十三年七月十日

常憲院殿より御給ひ申上七年八月二十日遣

御をのきし衣を御給ひし三百石を兄に八郎

定信より申上し正月十日法印申敷し延享

四年十月十五日延享二年二月三日衣を申上

妻ハ拂系年之助忠朝の女

後妻ハ志胡ノ女又ハ左衛門母茂也ノ女也

某

今右部

早世

某

定次郎

早世

公道

母八某氏 姦松丸氏於ハ法印

延享四年十二月二十日遺跡を施宛延元年

三月二十八日

博信院殿母孫海ノ十二月二十日法印ノ叙
以是日先蹤あり法匠法印の之存する
きしハ物下とも是月唯此形結糸地二百
九十石餘を取樂形結糸あり移るる由度

元年八月二日曾死七年二月三法名悟音

如子

如子

如子

内後子^子忠義子^子始^子離婚の後長田新
左衛門^子重房の妻とす

如子

如子

如子

如子

如子

小川初九郎正作子燈之助一子一孫也
死也

如子

公豊

急務丸 氏於々 式部卿

法印

母之某氏

室慶元年十月四日遺跡を施す
十一月九日

後明院殿子孫傳一
叙之寛政二年先祖定修の著せし
類要を補注し
公道の編集せし
元の劉用之録書を参考し
と珍家要訣を類し
十日是を執筆す

九月廿九日 年早 必法名 梅録
書六寸 丹 野 卷 成 庸 子 女

公 欽

珍 丸 治 初 卿

母 之 某 氏

寛政二年 閏 十月 廿 日 造 録 之 終



女子

水 牧 折 入 菱 十 六 葉 菊

七 桐 少 孫

水 傳 廿 六 葉 菊 七 桐 之 勅 符

ありて用たり

